

# 西脇市障害者福祉に関するアンケート調査報告書

## 【速報版】

令和5年3月

西 脇 市



# 目 次

I 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
3. 報告書の見方.....	1
II アンケート調査結果.....	3
1 回答者の属性について.....	3
2 日常生活について.....	4
3 介護者の状況について.....	9
4 障害福祉サービス等の利用について.....	18
5 就労・就業について.....	25
6 災害時の対応について.....	32
7 障害者差別解消法について.....	38
8 子どもの相談等について.....	43

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市では、障害のあるなしに関わらず、住み慣れた地域で、その人らしさを発揮しながら安心して暮らせる共生社会を目指して策定した「西脇市障害者基本計画」等の計画が令和5年度で終了するため、令和6年度からの「西脇市障害者基本計画」及び「第7期西脇市障害福祉計画・第3期西脇市障害児福祉計画」を策定します。

本調査は、障害のある方の生活の状況、障害福祉サービス等の利用状況と今後の意向や障害者施策に対するご意見などをおうかがいし、これまでの計画の評価と新しい計画を策定する上での貴重な資料とすることを目的に実施しました。

## 2. 調査概要

- 調査対象者：西脇市在住で、身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳及び特定医療費（指定難病）受給者証の所持者、前記以外で特別児童扶養手当やサービス等を利用している者
- 調査票配布数：1,107件（18歳以上・18歳未満）
- 調査期間：令和4年11月25日～令和4年12月16日
- 調査方法：郵送による配布・郵送及びインターネットでの回収（無記名で回答）

対象者	配布数	回答数	回答率
18歳以上	923件	389件	42.1%
18歳未満	184件	63件	34.2%
合計	1,107件	452件	40.8%

## 3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。また、選択肢への回答が「0.0%」の場合は表示を省いています。
- 手帳別等の集計（18歳以上）においては、複数の手帳等を所持している人がいるため、回答数の合計に合致しません。
- 前回調査は平成29年度実施のアンケート調査です。

手帳別等所持者の回答数は以下の通りです。

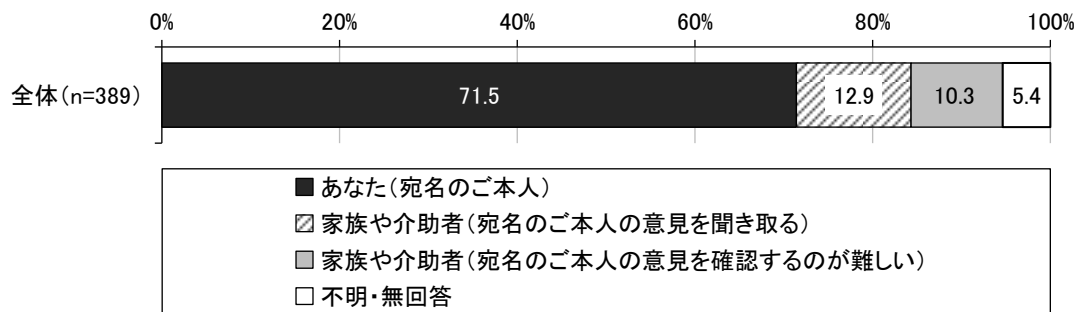
■手帳別等所持者の回答数

手帳別等	今回調査 回答数	前回調査 回答数
18歳未満	63件	67件
18歳以上		
身体障害者手帳	116件	227件
療育手帳	112件	77件
精神保健福祉手帳	86件	35件
特定医療費（指定難病）受給者証	93件	40件

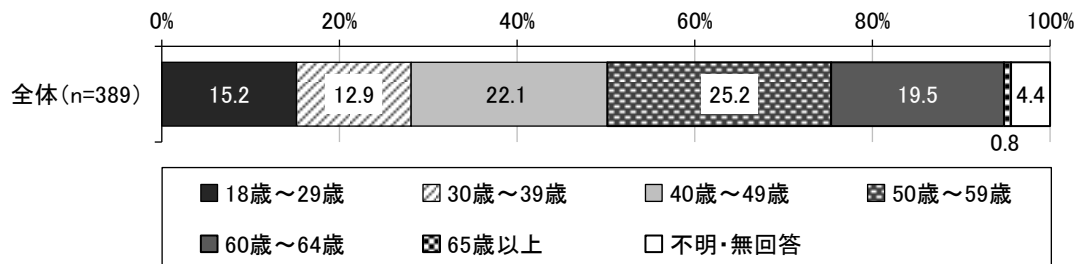
## II アンケート調査結果

### 1 回答者の属性について

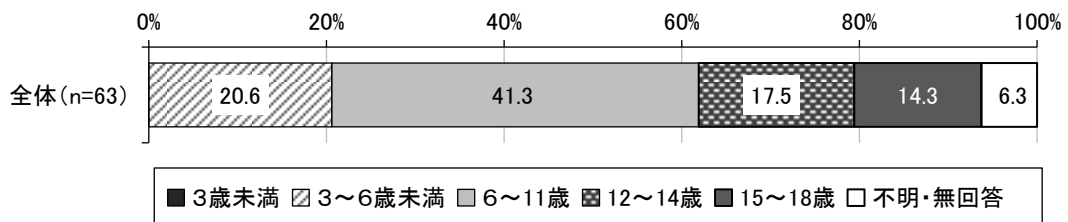
#### ■ アンケートの回答者（18歳以上・単数回答）



#### ■ 年齢（単数回答・18歳以上）



#### ■ 年齢（単数回答・18歳未満）

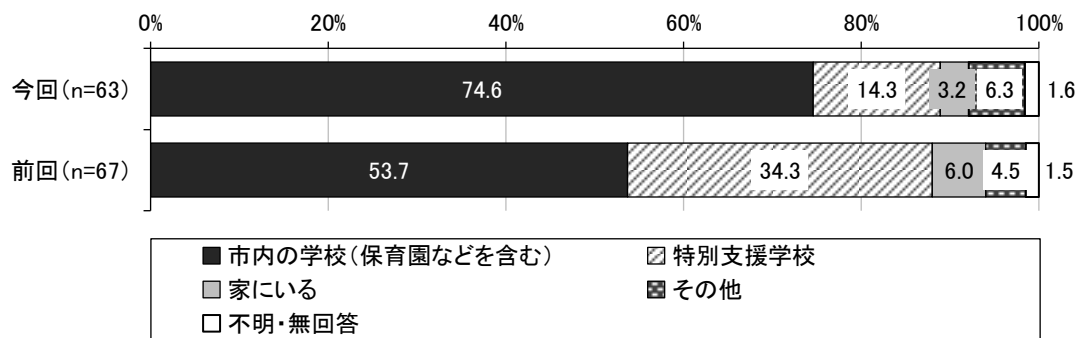


## 2 日常生活について

### ① 子ども（18歳未満）の昼間の過ごし方（問8・18歳未満）

昼間どこで過ごしているかについてみると、「市内の学校（保育園などを含む）」が74.6%、「特別支援学校」が14.3%となっています。

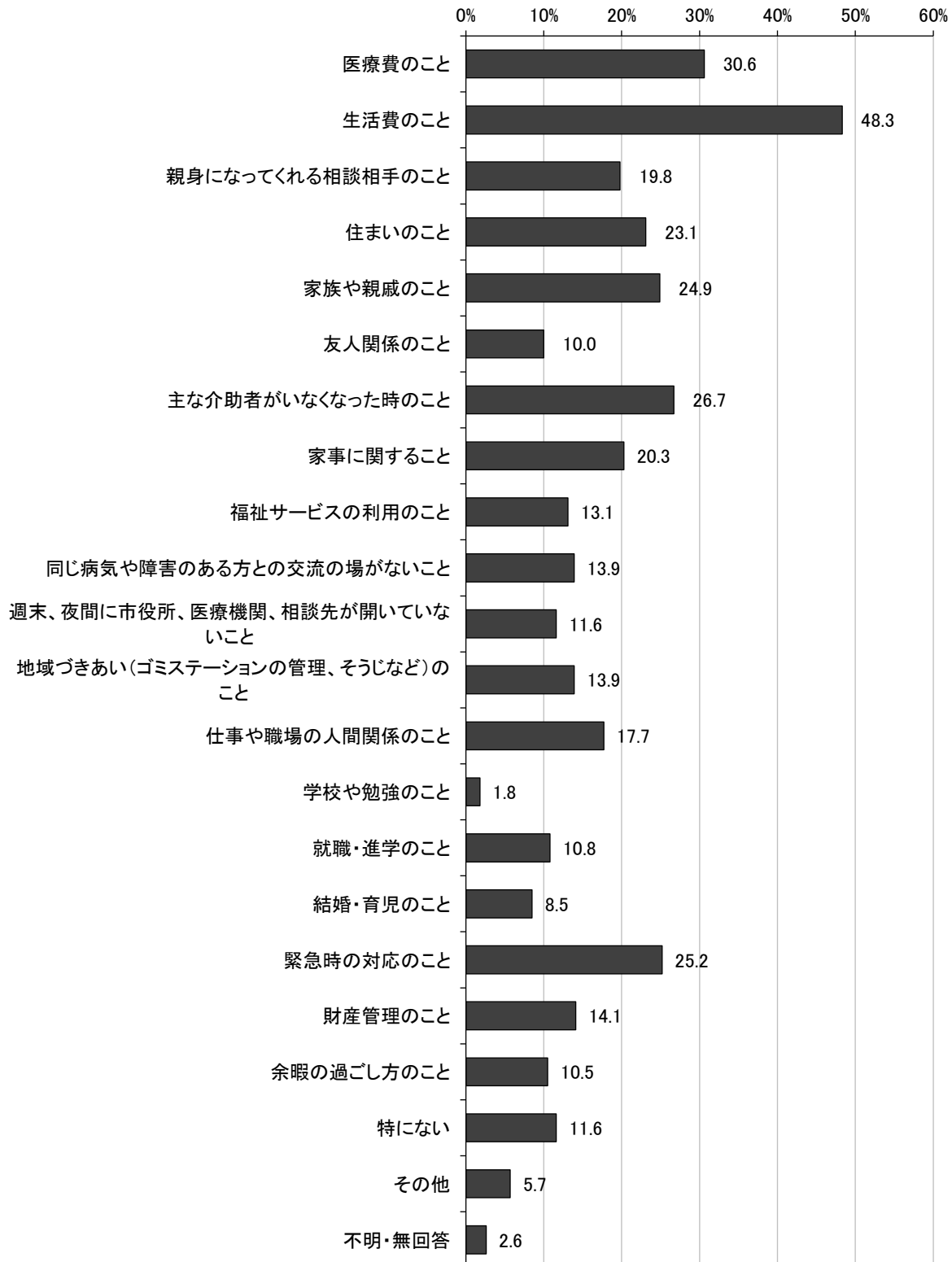
前回調査と比較すると、「市内の学校（保育園などを含む）」が大きく増え、「特別支援学校」の割合が減少しています。



## ② 日常生活の不安や悩み（問18）

日常生活の中で、どのようなことに悩みや不安を感じるかについてみると、「生活費のこと」が48.3%と最も高く、次いで「医療費のこと」が30.6%、「主な介助者がいなくなった時のこと」が26.7%となっています。

全体(n=389)





手帳別等についてみると、「生活費のこと」が身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳（以下精神障害者手帳と表記）、特定医療費（指定難病）受給者証（以下難病と表記）でそれぞれ 46.4%、66.3%、52.7%と最も高く、次いで「医療費のこと」となっています。療育手帳では「主な介助者がいなくなった時のこと」が40.2%と最も高く、次いで「生活費のこと」となっています。

前回調査と比較すると、1位、2位は概ね前回調査と変化はなく、難病で「医療費のこと」と「生活費のこと」が入れ替わった程度となっています。また、3位に入っていた「緊急時の対応のこと」が上位から外れています。

年齢別についてみると、「生活費のこと」が18～39歳、40～59歳、60歳以上でそれぞれ44.8%、50.8%、51.3%と最も高く、次いで「医療費のこと」や「主な介助者がいなくなった時のこと」となっています。18歳未満では、「学校や勉強のこと」が39.7%で最も高く、次いで「特になし」、「就職・進学のこと」となっています。

前回調査と比較すると、順位に変動はあるものの上位項目は大きく変わっていません。唯一、18歳未満で「就職・進学のこと」の割合が大きく減少しています。

■ 日常生活の悩みや不安（複数回答・手帳別等・18歳以上）

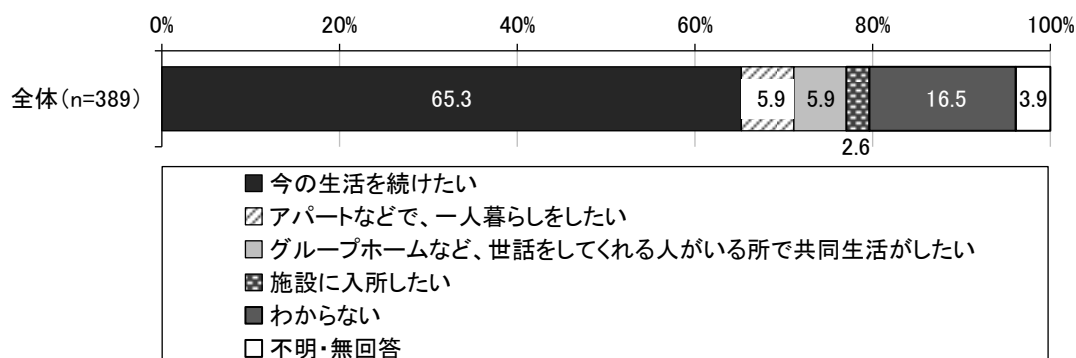
今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	身体障害者手帳所持者（N=116）		順位	身体障害者手帳所持者（N=227）	
1	生活費のこと	46.4	1	生活費のこと	47.1
2	医療費のこと	31.3	2	医療費のこと	29.1
3	主な介助者がいなくなった時のこと	29.5	3	緊急時の対応のこと	24.7
順位	療育手帳所持者（N=112）		順位	療育手帳所持者（N=77）	
1	主な介助者がいなくなった時のこと	40.2	1	主な介助者がいなくなった時のこと	50.6
2	生活費のこと	33.0	2	生活費のこと	39.0
3	医療費のこと	21.4	3	緊急時の対応のこと	37.7
順位	精神障害者保健福祉手帳（N=86）		順位	精神障害者保健福祉手帳（N=35）	
1	生活費のこと	66.3	1	生活費のこと	65.7
2	医療費のこと	43.0	2	医療費のこと	46.3
3	家族や親戚のこと	40.7	3	親身になってくれる相談相手のこと	35.8
順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=93）		順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=40）	
1	生活費のこと	52.7	1	医療費のこと	52.5
2	医療費のこと	38.7	2	生活費のこと	37.5
3	家族や親戚のこと	26.9	3	家族や親戚のこと	20.0

■ 日常生活の悩みや不安（複数回答・年齢別）

今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	18歳未満(N=63)		順位	18歳未満(N=67)	
1	学校や勉強のこと	39.7	1	就職・進学のこと	50.7
2	特にない	28.5	2	学校や勉強のこと	46.3
3	就職・進学のこと	25.4	3	主な介助者がいなくなった時のこと	35.8
順位	18～39歳(N=105)		順位	18～39歳(N=105)	
1	生活費のこと	44.8	1	主な介助者がいなくなった時のこと	45.7
2	主な介助者がいなくなった時のこと	36.2	2	生活費のこと	39.0
3	緊急時の対応のこと	29.5	2	緊急時の対応のこと	39.0
順位	40～59歳(N=179)		順位	40～59歳(N=182)	
1	生活費のこと	50.8	1	生活費のこと	51.6
2	医療費のこと	33.0	2	医療費のこと	33.5
3	家族や親戚のこと	30.7	3	家族や親戚のこと	25.8
順位	60歳以上(N=78)		順位	60歳以上(N=94)	
1	生活費のこと	51.3	1	生活費のこと	51.6
2	医療費のこと	38.5	2	医療費のこと	30.9
3	住まいのこと	26.9	3	特にない	28.7

③ 将来暮らしたいところ（問19）

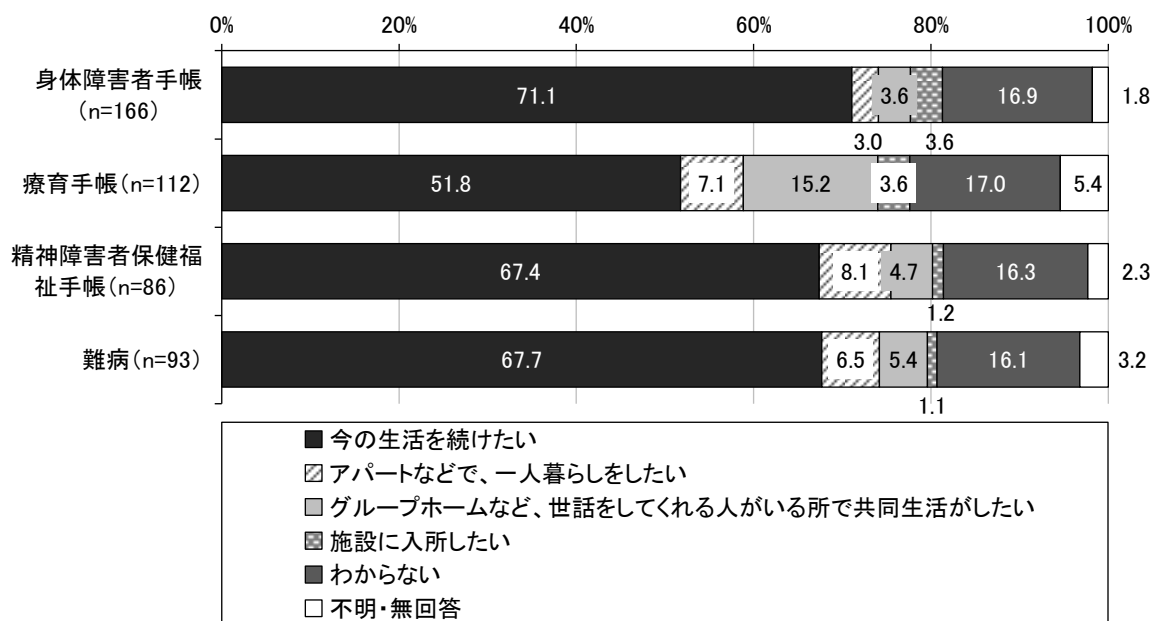
将来どこで暮らしたいかについてみると、「今の生活を続けたい」が65.3%と最も高く、次いで「わからない」が16.5%、「アパートなどで、一人暮らしをしたい」と「グループホームなど、世話をしてくれる人がいる所で共同生活がしたい」がそれぞれ5.9%となっています。



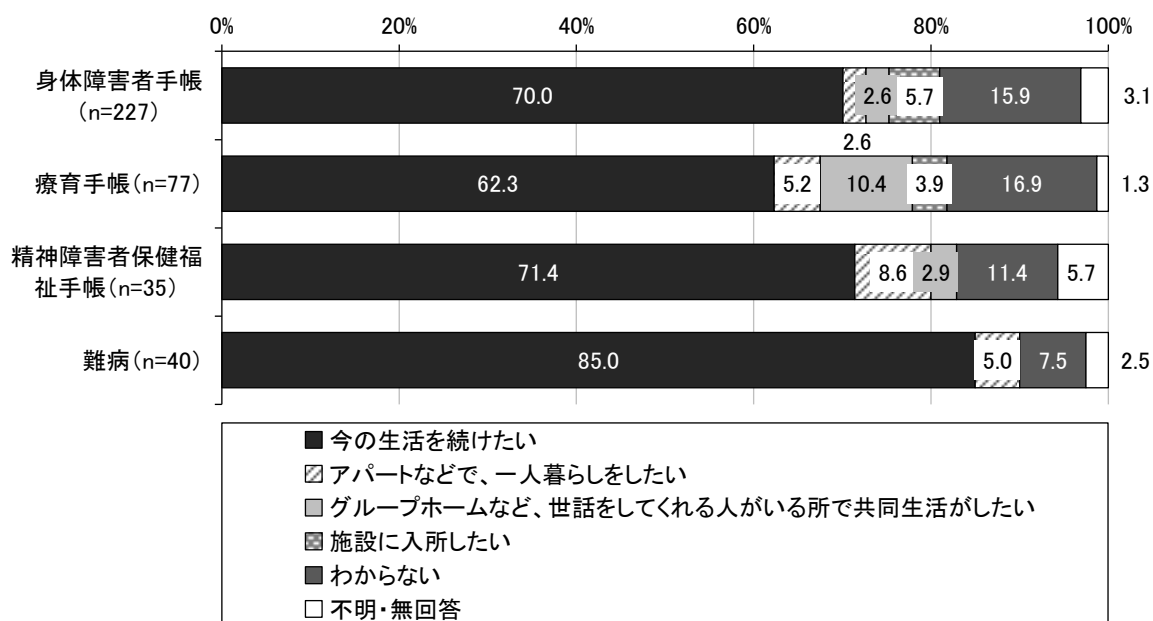
手帳別等についてみると、「今の生活を続けたい」がすべてで最も高く、次いで身体障害者手帳、療育手帳では「グループホームなど、世話をしてくれる人がいる所で共同生活がしたい」、精神障害者手帳、難病では「アパートなどで、一人暮らしをしたい」となっています。

前回調査と比較すると、「今の生活を続けたい」の割合が、身体障害者手帳で微増となったものの、他の手帳等では減少となっています。「わからない」の割合が精神障害者手帳、難病で増加しています。

■ 将来暮らしたいところ（単数回答・手帳別等・18歳以上）



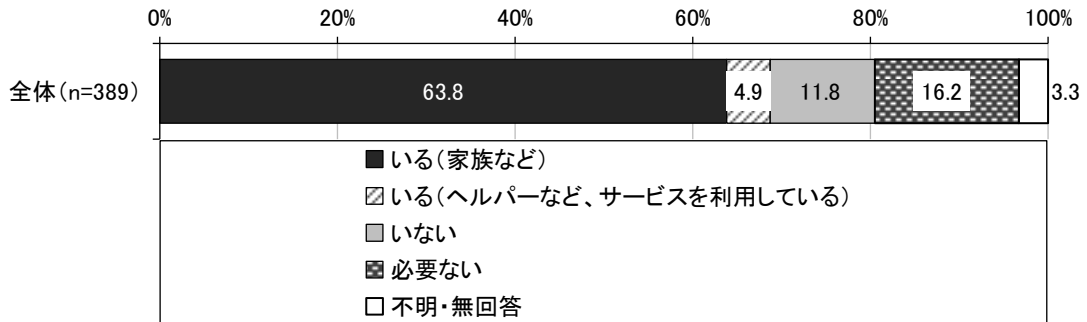
【前回調査】



### 3 介護者の状況について

#### ① 毎日の生活で介助をしてくれる人の有無（問43）

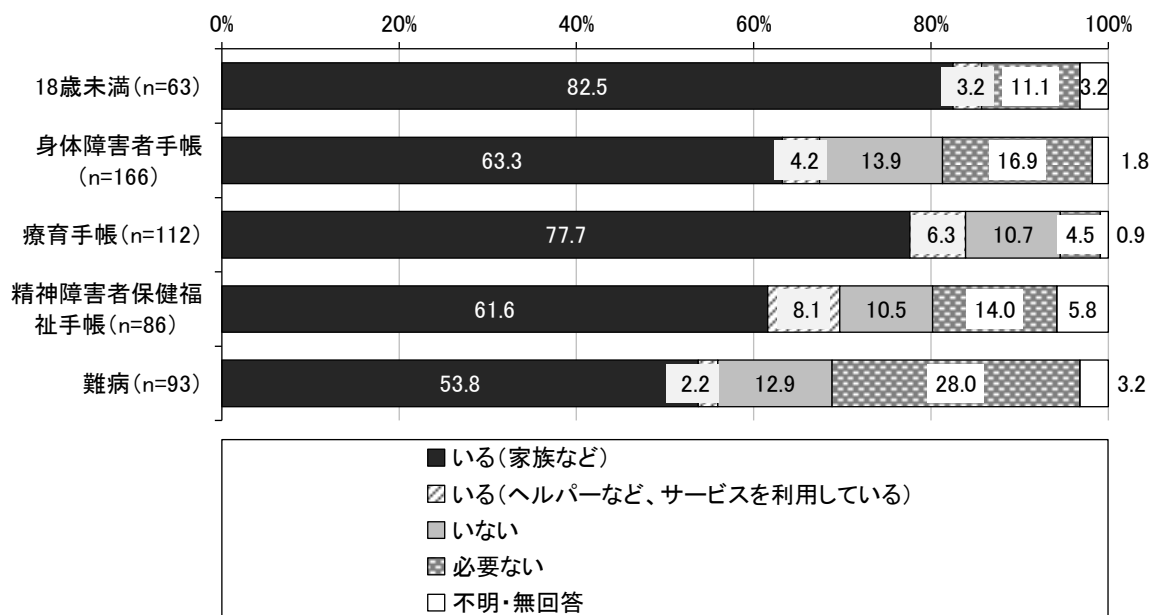
毎日の生活で介助（日常的な介護だけでなく、声をかけたり見守ったりすること）をしてくれる人がいるかについてみると、「いる（家族など）」が63.8%と最も高く、次いで「必要ない」が16.2%、「いない」が11.8%となっています。



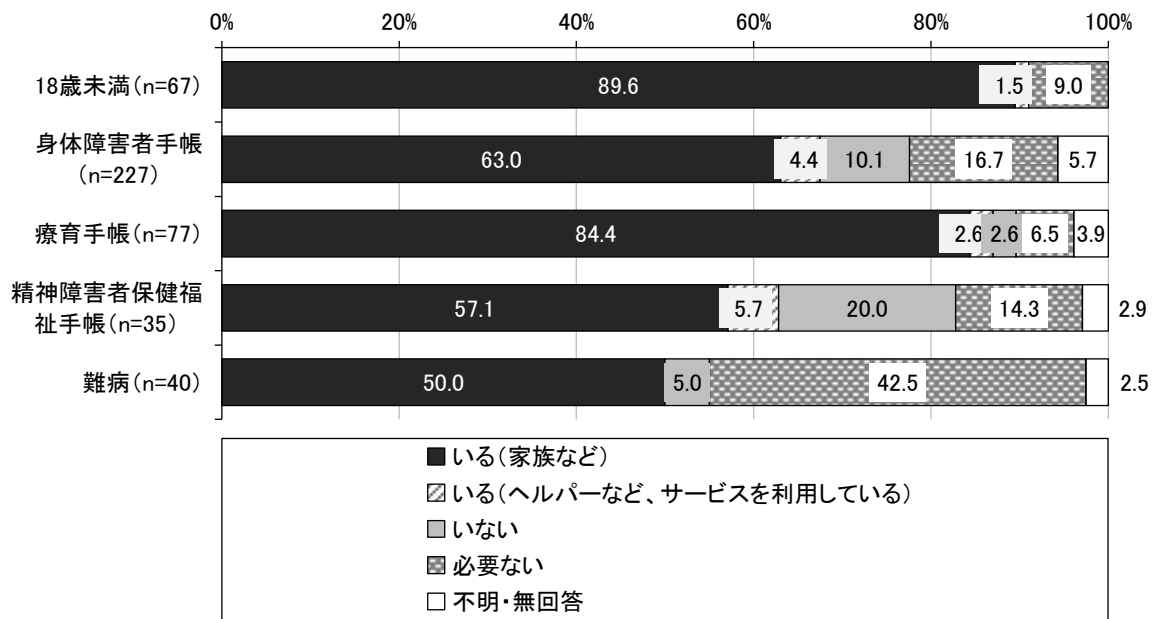
手帳別等についてみると、「いる（家族など）」がすべて手帳等で最も高く、18歳未満では82.5%、療育手帳では77.7%となっています。次いで療育手帳で「いない」、他の手帳等で「必要ない」となっています。

前回調査と比較すると、「いる（家族など）」の割合は、18歳未満、療育手帳で減少、精神障害者手帳、難病で増加となっています。療育手帳、難病で「いない」の割合が増加しています。

#### ■ 毎日の生活で介助をしてくれる人の有無（単数回答・手帳別等・18歳未満）

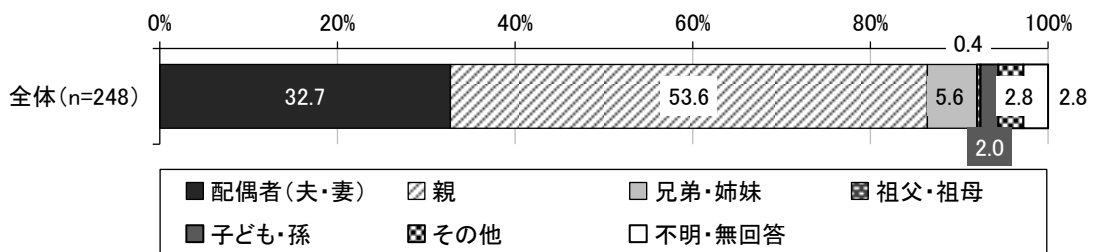


【前回調査】



② 主な介助者（問44）

主に介助している人はどなたかについてみると、「親」が53.6%と最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が32.7%、「兄弟・姉妹」が5.6%となっています。

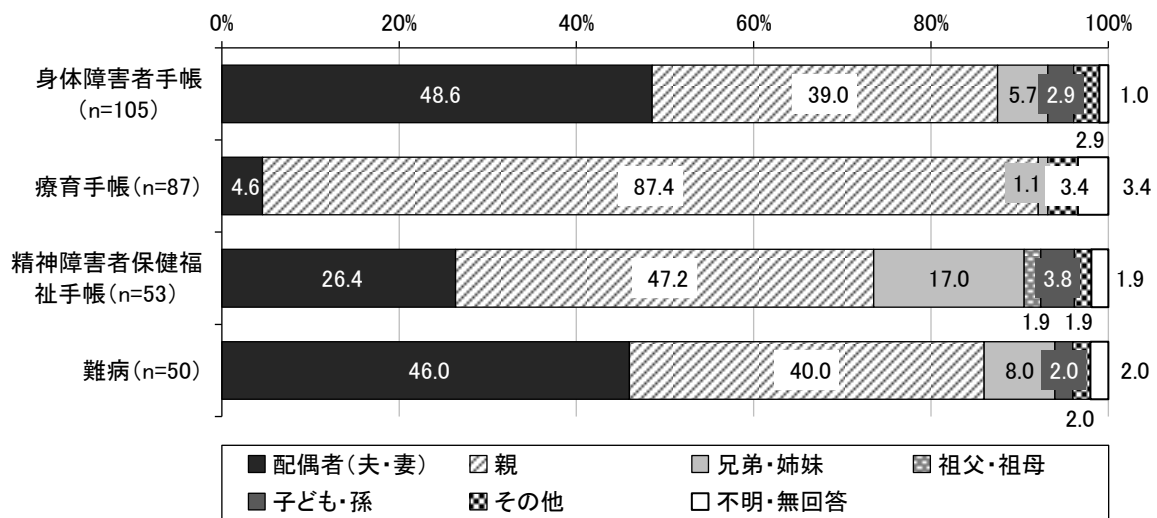


手帳別等についてみると、身体障害者手帳、難病では「配偶者（夫・妻）」がそれぞれ48.6%、46.0%、療育手帳、障害者手帳では「親」がそれぞれ87.4%、47.2%と最も高くなっています。次いで身体障害者手帳、難病では「親」、精神障害者手帳では「兄弟・姉妹」となっています。

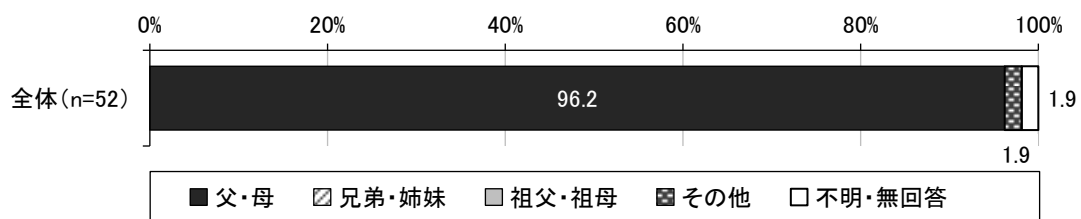
前回調査と比較すると、身体障害者手帳、難病で「配偶者（夫・妻）」の割合が減少、特に難病では24ポイントの大幅な減少となっています。療育手帳、精神障害者手帳、難病で「親」の割合が増加しています。

一方、18歳未満は「父・母」の割合が96.2%と高くなっています。

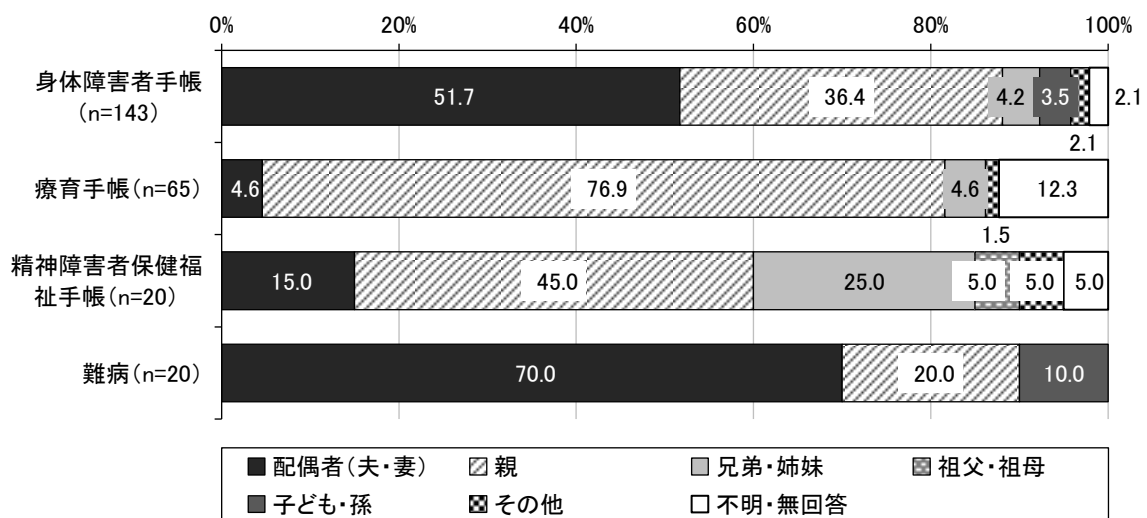
■ 主な介助者（単数回答・障害種別・18歳以上）



■ 主な介助者（単数回答・18歳未満）



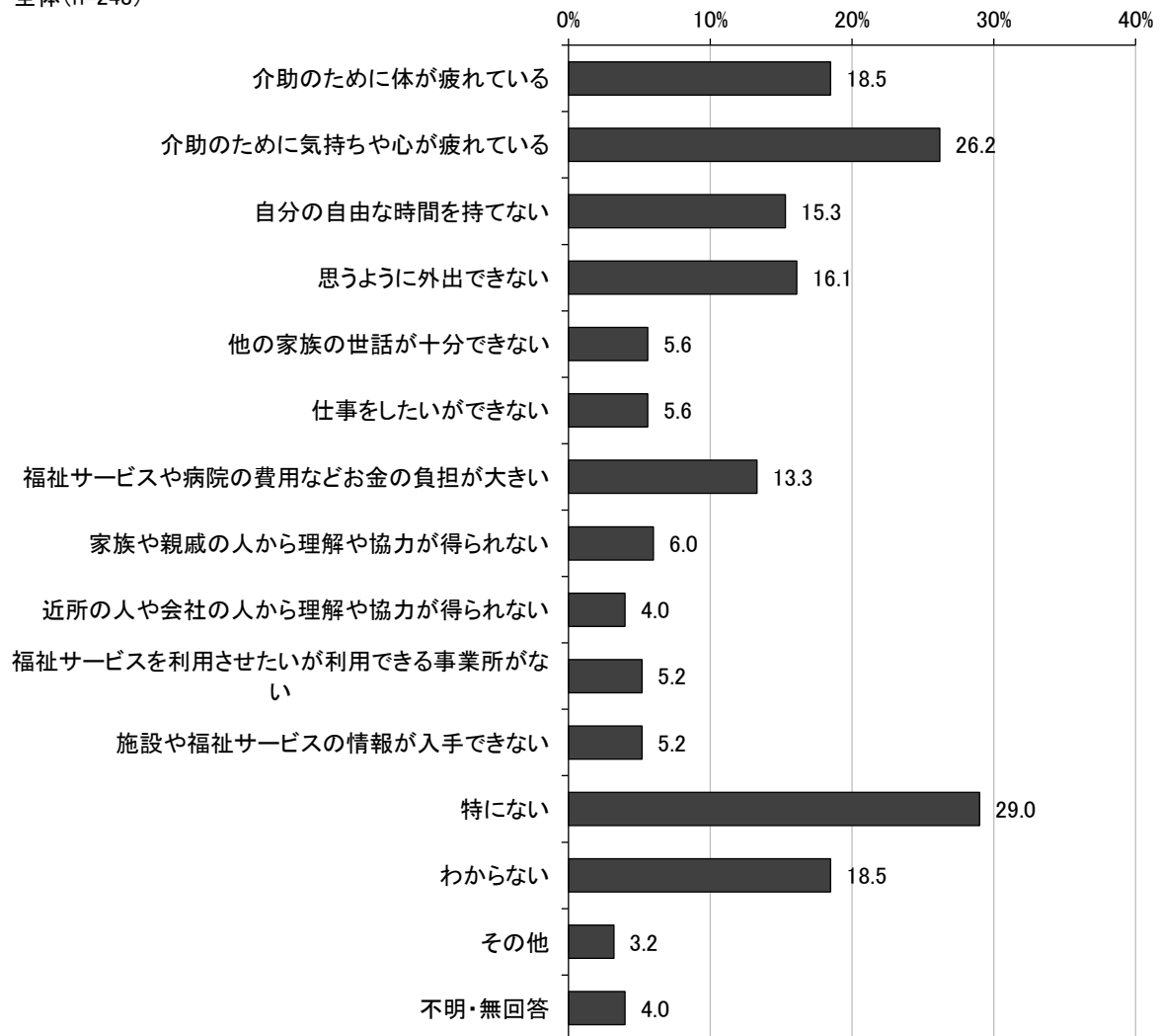
【前回調査】



### ③ 主な介助者が困っていること（問49）

主に介助している人が困っていること（困っているのではないかと思うこと）についてみると、「特にない」が29.0%と最も高く、次いで「介助のために気持ちや心が疲れている」が26.2%、「介助のために体が疲れている」が18.5%となっています。

全体(n=248)



手帳別等についてみると、療育手帳、精神障害者手帳は「介助のために気持ちや心が疲れている」がそれぞれ28.7%、39.6%、身体障害者手帳、難病は「特にない」がそれぞれ40.0%、30.0%と最も高くなっています。次いで身体障害者手帳、精神障害者手帳では「介助のために体が疲れている」、療育手帳では「思うように外出できない」、難病では「介助のために気持ちや心が疲れている」となっています。

前回調査と比較すると、精神障害者手帳、難病で「特にない」の割合が減少し、難病を除き「介助のために気持ちや心が疲れている」、「介助のために体が疲れている」の割合の増加がみられます。

年齢別についてみると、18歳未満、18～39歳で「介助のために気持ちや心が疲れている」がそれぞれ36.5%、27.3%、40～59歳、60歳以上で「特にない」がそれぞれ32.4%、35.6%と最も高くなっています。次いで40歳以上では「介助のために気持ちや心が疲れている」、18歳未満では「自分の自由な時間を持ってない」、「特にない」、18～39歳では「思うように外出できない」となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」の割合が減少、「介助のために気持ちや心が疲れている」の割合が増加しています。

### ■ 主な介助者が困っていること（複数回答・手帳別等・18歳以上）

今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	身体障害者手帳所持者（N=105）		順位	身体障害者手帳所持者（N=143）	
1	特にない	40.0	1	特にない	35.0
2	介助のために体が疲れている	21.0	2	思うように外出できない	23.8
2	介助のために気持ちや心が疲れている	21.0	3	介助のために体が疲れている	19.6
順位	療育手帳所持者（N=87）		順位	療育手帳所持者（N=65）	
1	介助のために気持ちや心が疲れている	28.7	1	思うように外出できない	24.6
2	思うように外出できない	21.8	2	わからない	23.1
2	特にない	21.8	3	介助のために気持ちや心が疲れている	21.5
順位	精神障害者保健福祉手帳（N=53）		順位	精神障害者保健福祉手帳（N=20）	
1	介助のために気持ちや心が疲れている	39.6	1	特にない	40.0
2	介助のために体が疲れている	32.1	2	介助のために気持ちや心が疲れている	30.0
3	福祉サービスや病院の費用などお金の負担が大きい	20.8	3	介助のために体が疲れている	25.0



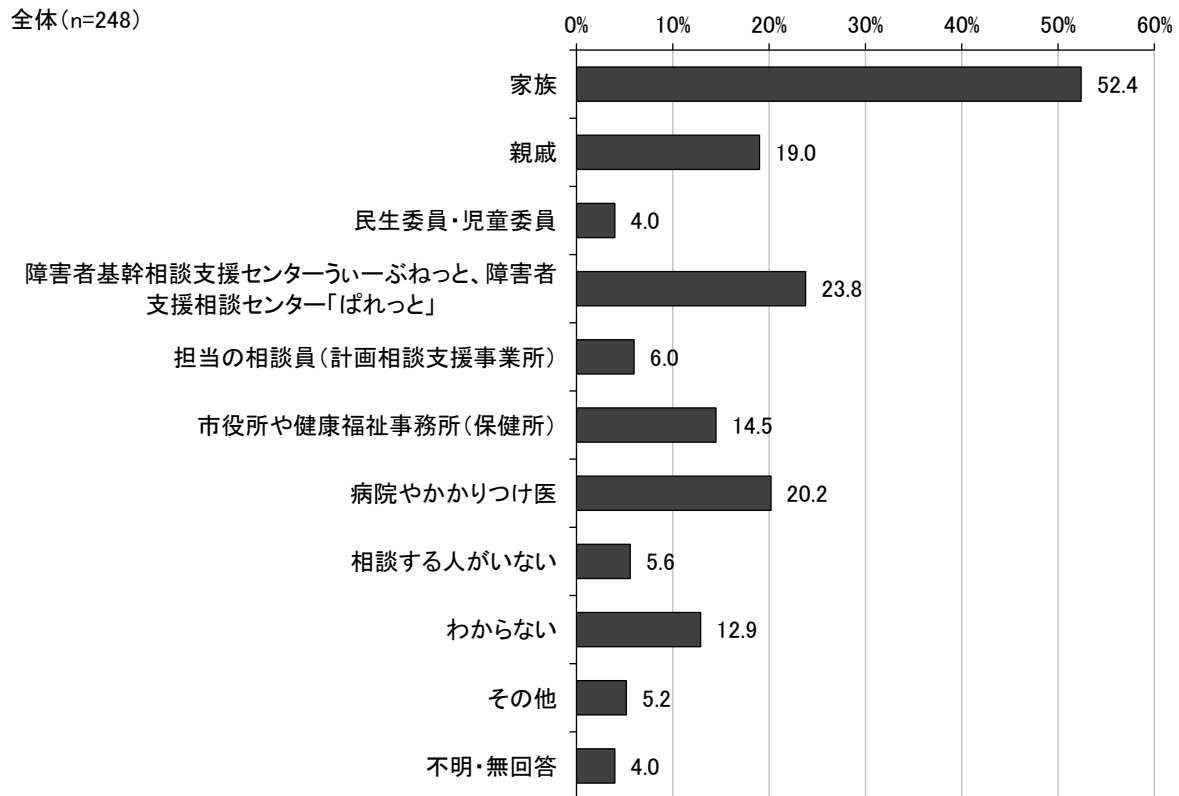
順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=50）		順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=20）	
1	特にない	30.0	1	特にない	55.0
2	介助のために気持ちや心が疲れている	18.0	2	介助のために気持ちや心が疲れている	25.0
3	わからない	18.0	3	自分の自由な時間を持ってない/思うように外出できない/わからない	10.0

■ 主な介助者が困っていること（複数回答・年齢別）

今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	18歳未満（N=63）		順位	18歳未満（N=60）	
1	介助のために気持ちや心が疲れている	36.5	1	自分の自由な時間を持ってない	33.3
2	自分の自由な時間を持ってない	28.8	2	特にない	31.7
2	特にない	28.8	3	介助のために気持ちや心が疲れている	30.0
順位	18～39歳（N=105）		順位	18～39歳（N=80）	
1	介助のために気持ちや心が疲れている	27.3	1	思うように外出できない	28.8
2	思うように外出できない	26.0	2	介助のために気持ちや心が疲れている	23.8
3	特にない	24.7	3	介助のために体が疲れている	22.5
順位	40～59歳（N=179）		順位	40～59歳（N=122）	
1	特にない	32.4	1	特にない	35.2
2	介助のために気持ちや心が疲れている	27.6	2	介助のために気持ちや心が疲れている	23.0
3	介助のために体が疲れている	20.0	3	思うように外出できない	21.3
順位	60歳以上（N=78）		順位	60歳以上（N=47）	
1	特にない	35.6	1	特にない	46.8
2	介助のために気持ちや心が疲れている	24.4	2	自分の自由な時間を持ってない	14.9
3	福祉サービスや病院の費用などお金の負担が大きい	20.0	3	思うように外出できない/わからない	12.8

#### ④ 主な介助者が困った時の相談先（問50）

主に介助している人が困ったときに誰に相談するかについてみると、「家族」が 52.4%と最も高く、次いで「障害者基幹相談支援センターういーぶねっと、障害者支援相談センター「ぱれっと」」が 23.8%、「病院やかかりつけ医」が 20.2%となっています。



手帳別等についてみると、「家族」の割合が最も高く、身体障害者手帳、療育手帳、難病ではそれぞれ 59.0%、52.9%、54.0%と 50%を超えています。次いで「病院やかかりつけ医」、「親戚」となっています。療育手帳では「障害者基幹相談支援センターういーぶねっと、障害者支援相談センター「ぱれっと」」が 41.4%と高くなっています。

前回調査と比較すると、上位項目には大きな変化はみられませんが、難病で「家族」の割合が 16ポイントと大きく減少しています。

年齢別についてみると、すべての年齢で「家族」の割合が最も高くなっています。特に 18 歳未満、60 歳以上ではそれぞれ 78.8%、68.9%となっています。次いで 40 歳以上では病院やかかりつけ医、「親戚」、18 歳未満では「学校の先生」、18～39 歳では「障害者基幹相談支援センターういーぶねっと、障害者支援相談センター「ぱれっと」」となっています。

前回調査と比較すると、手帳別等と同様に上位項目には大きな変化はみられません。

■ 主な介助者が困った時の相談先（複数回答・手帳別等・18歳以上）

今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	身体障害者手帳所持者（N=105）		順位	身体障害者手帳所持者（N=143）	
1	家族	59.0	1	家族	56.6
2	病院やかかりつけ医	21.0	2	病院やかかりつけ医	23.8
3	親戚	16.2	3	親戚	18.9
順位	療育手帳所持者（N=87）		順位	療育手帳所持者（N=65）	
1	家族	52.9	1	家族	58.5
2	障害者基幹相談支援センターういーぶねっと、障害者支援相談センター「ばれっと」	41.4	2	障害者相談支援センターなどの専門機関	32.8
3	親戚	16.1	3	病院やかかりつけ医/親戚	23.1
順位	精神障害者保健福祉手帳（N=53）		順位	精神障害者保健福祉手帳（N=20）	
1	家族	39.6	1	家族	35.0
2	病院やかかりつけ医	32.1	1	病院やかかりつけ医	30.0
3	親戚	24.5	3	障害者相談支援センターなどの専門機関	15.0
順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=50）		順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=20）	
1	家族	54.0		家族	70.0
2	親戚	24.0		病院やかかりつけ医	30.0
3	病院やかかりつけ医	22.0		親戚	25.0

■ 主な介助者が困った時の相談先（複数回答・年齢別）

今回調査（単位：％）			前回調査（単位：％）		
順位	18歳未満（N=63）		順位	18歳未満（N=60）	
1	家族	78.8	1	家族	85.0
2	学校の先生	50.0	2	学校の先生	45.0
3	担当の相談員（計画相談支援事業所）	34.6	3	障害のある子を持つ保護者	38.3

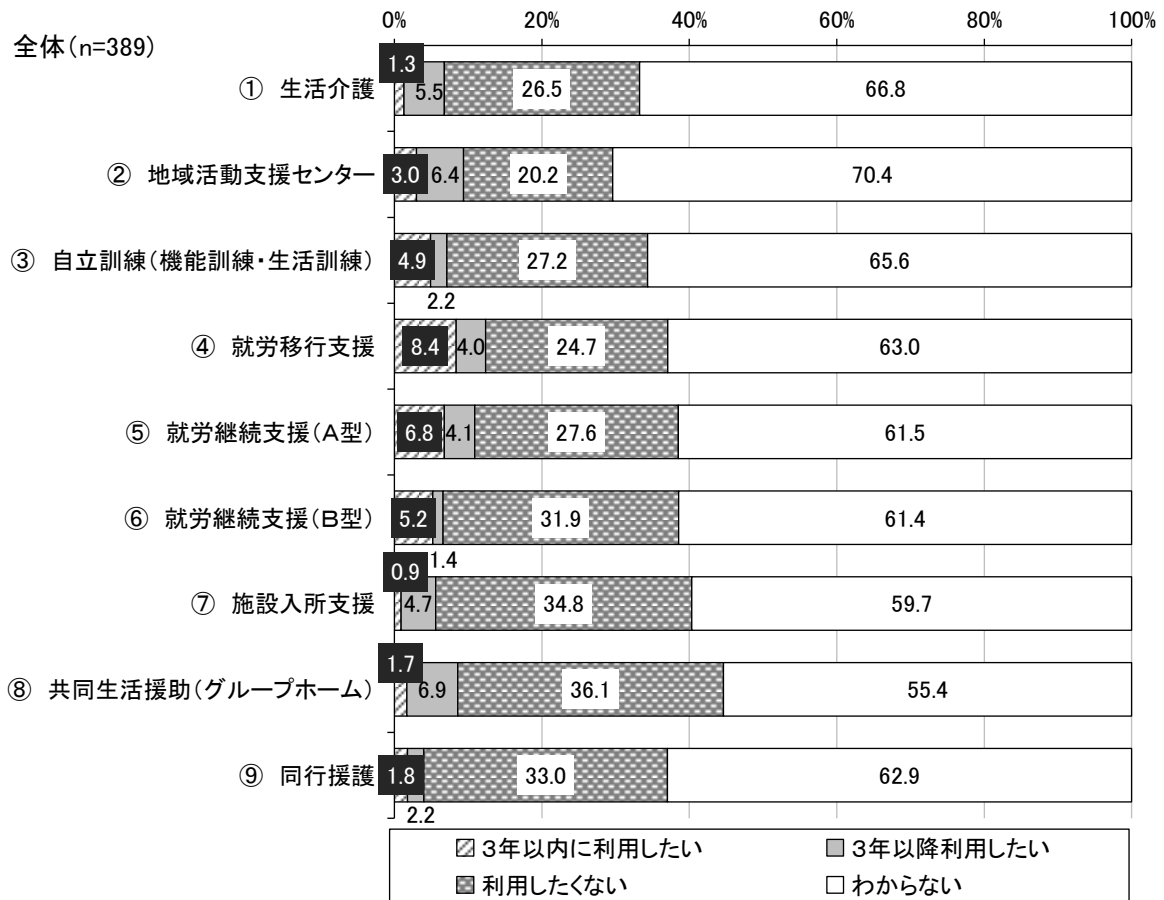
順位	18～39歳 (N=105)		順位	18～39歳 (N=80)	
1	家族	55.1	1	家族	61.3
2	障害者基幹相談支援センターういーぶねつと、障害者支援相談センター「ばれっと」	42.3	2	障害者相談支援センターなどの専門機関	35.0
3	病院やかかりつけ医	24.4	3	病院やかかりつけ医	25.0
順位	40～59歳 (N=179)		順位	40～59歳 (N=122)	
1	家族	49.5	1	家族	54.9
2	病院やかかりつけ医	21.9	2	病院やかかりつけ医	26.2
3	親戚	21.0	3	親戚	19.7
順位	60歳以上 (N=78)		順位	60歳以上 (N=47)	
1	家族	68.9	1	家族	53.2
2	親戚	17.8	2	病院やかかりつけ医	23.4
3	病院やかかりつけ医	15.6	3	親戚/市役所や健康福祉事務所（保健所）	19.1

## 4 障害福祉サービス等の利用について

### ①-1 障害福祉サービス等の利用意向（問23）【障害のある方のみ】

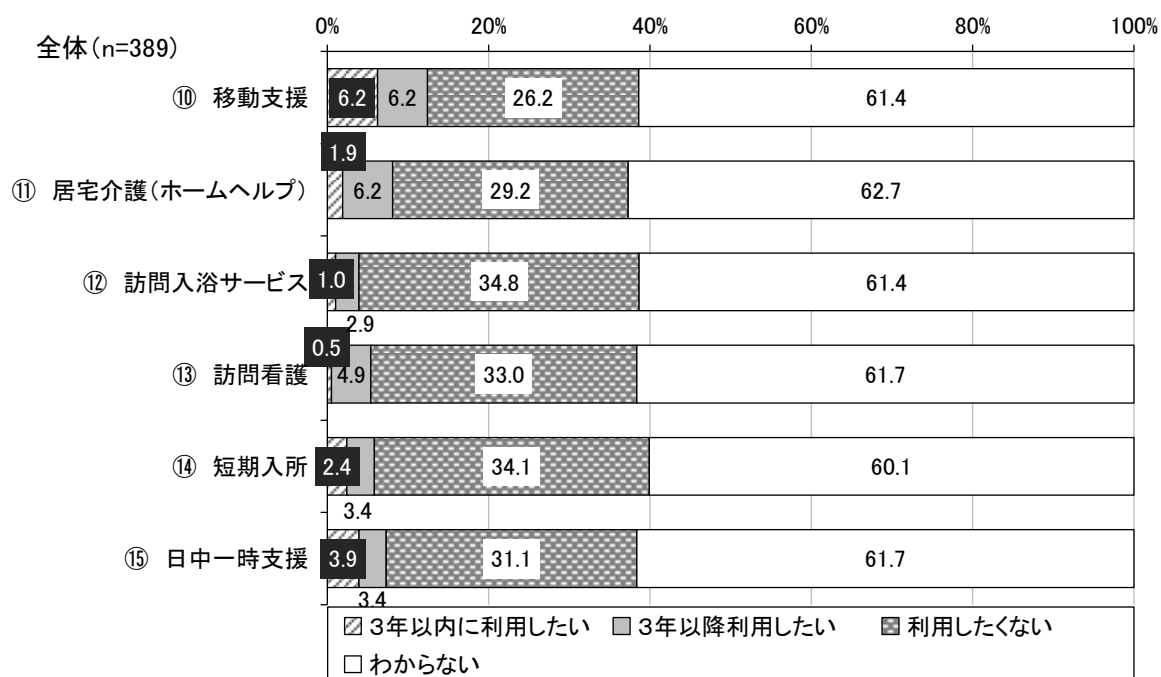
障害のある方の対象サービスの利用意向についてみると、『3年以内に利用したい』では「就労移行支援」が8.4%と最も高く、次いで「就労継続支援（A型）」が6.8%、『3年以降利用したい』では「共同生活援助（グループホーム）」が6.9%と最も高く、次いで「地域活動支援センター」が6.4%となっています。

一方、『利用したくない』では「共同生活援助（グループホーム）」が36.1%と最も高く、次いで「施設入所支援」が34.8%となっています。



## ①-2 障害福祉サービス等の利用意向（問23）【障害のある子ども及び障害のある方】

障害のある子ども及び障害のある方の対象サービスの利用意向についてみると、『3年以内に利用したい』では「移動支援」が6.2%と最も高く、次いで「日中一時支援」が3.9%、『3年以降利用したい』では「移動支援」と「共同生活援助（グループホーム）」がそれぞれ6.2%と最も高くなっています。



手帳別についてみると、身体障害者手帳は「生活介護」、療育手帳は「移動支援」、精神障害者手帳は「就労継続支援（A型）」、難病は「地域活動支援センター」、それぞれ7.2%、14.2%、10.4%、4.3%と最も高くなっています。各手帳により利用意向は分かれています。就労移行支援は共通して上位に入っており、就労支援へのニーズは高いとみられます。

年齢別についてみると、18歳未満は「放課後等デイサービス」、18～39歳は「移動支援」、40～59歳は「就労継続支援（A型）」、60歳以上は「生活介護」が、それぞれ52.9%、12.8%、6.0%、5.1%と最も高くなっています。また、60歳以上を除き、就労継続支援（A型・B型）利用意向が高くなっています。

手帳別、年齢別とも前回調査との比較では、利用意向の変化が顕著にみられます。また、療育手帳や18～59歳の年齢で、利用意向の低下がみられます。

※手帳別、年齢別の利用意向は、アンケートの「3年以内に利用したい」と「3年以降利用したい」の回答を合算した数値となります。

■ 障害福祉サービス等の利用意向・利用状況（複数回答・手帳別等・18歳以上）

今回調査（単位：％）				前回調査（単位：％）		
順位	身体障害者手帳所持者（N=166）			順位	身体障害者手帳所持者（N=227）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	生活介護	7.2	7.8	1	就労移行支援	7.4
2	移動支援	6.6	1.8	2	移動支援	7.1
3	地域活動支援センター	6.0	2.4	3	居宅介護（ホームヘルプ）	7.0
3	就労移行支援	6.0	2.4	4	生活介護	6.2
5	居宅介護（ホームヘルプ）	5.4	4.8	5	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	6.1
順位	療育手帳所持者（N=112）			順位	療育手帳所持者（N=77）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	移動支援	14.2	4.5	1	移動支援	19.5
2	共同生活援助（グループホーム）	12.5	8.0	2	短期入所	14.3
3	就労移行支援	8.1	5.4	3	共同生活援助（グループホーム）	13.0
4	施設入所支援	7.2	0.0	3	日中一時支援	13.0
5	同行援護	7.2	0.9	5	就労継続支援（A型）	11.7
順位	精神障害者保健福祉手帳（N=86）			順位	精神障害者保健福祉手帳（N=35）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	就労継続支援（A型）	10.4	3.5	1	就労移行支援	8.6
2	就労移行支援	9.3	1.2	1	就労継続支援（A型）	8.6
3	地域活動支援センター	8.2	3.5	3	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	2.9
4	就労継続支援（B型）	5.9	25.6	4	—	
5	居宅介護（ホームヘルプ）	4.6	8.1	5	—	
順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=93）			順位	特定医療費（指定難病）受給者証（N=40）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	地域活動支援センター	4.3	5.4	1	居宅介護（ホームヘルプ）	7.5
2	生活介護	3.2	3.2	2	生活介護	5.0
3	就労継続支援（A型）	3.2	5.4	2	日中一時支援	5.0
4	就労移行支援	2.2	2.2	4	自立訓練（機能訓練・生活訓練）/就労移行支援/施設入所支援/共同生活援助（グループホーム）/同行援護/移動支援	2.5
4	施設入所支援	2.2	0.0			

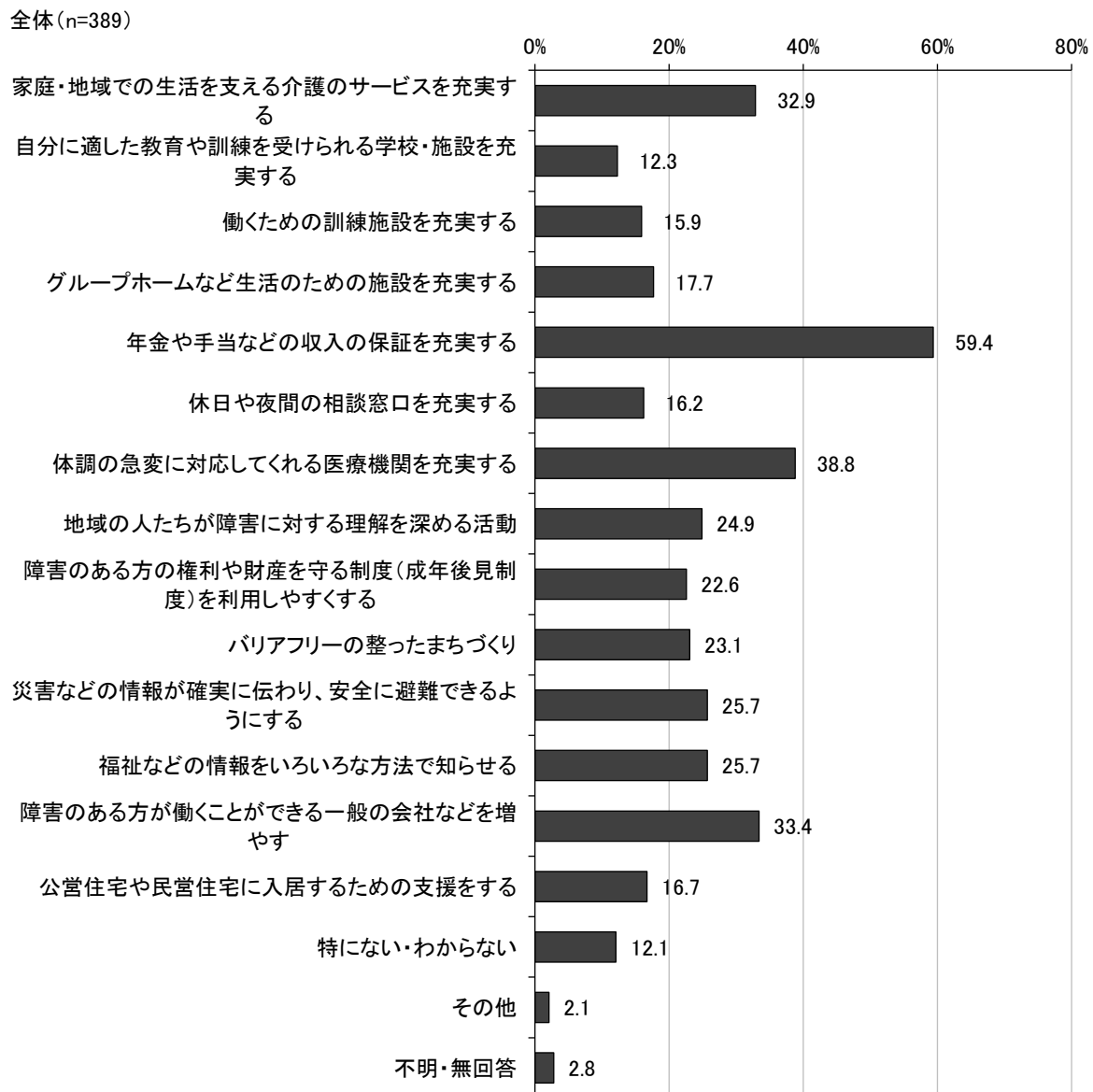
■ 障害福祉サービス等の利用意向・利用状況（複数回答・年齢別）

今回調査（単位：％）				前回調査（単位：％）		
順位	18歳未満（N=63）			順位	18歳未満（N=67）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	放課後等デイサービス	52.5	6.3	1	移動支援	25.4
2	日中一時支援	27.9	3.2	1	放課後等デイサービス	25.4
3	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	25.0	0.0	3	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	23.8
4	就労継続支援（A型）	23.7	0.0	4	学童保育	19.4
5	就労継続支援（B型）	23.1	0.0	4	児童発達支援	19.4
順位	18～39歳（N=78）			順位	18～39歳（N=105）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	移動支援	12.8	3.7	1	移動支援	20.0
2	就労移行支援	11.9	3.7	2	日中一時支援	17.2
3	共同生活援助（グループホーム）	11.0	6.4	3	短期入所	13.4
4	就労継続支援（A型）	8.3	3.7	4	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	12.4
5	同行援護	6.4	0.0	4	居宅介護（ホームヘルプ）	12.4
順位	40～59歳（N=179）			順位	40～59歳（N=182）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	就労継続支援（A型）	6.0	4.9	1	就労移行支援	7.7
2	地域活動支援センター	5.4	3.8	2	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	4.9
3	就労移行支援	4.3	2.7	2	施設入所支援	4.9
4	就労継続支援（B型）	3.3	13.0	4	就労継続支援（A型）	4.3
4	共同生活援助（グループホーム） /居宅介護（ホームヘルプ）	3.3	2.2/4.9	4	移動支援	4.3
順位	60歳以上（N=78）			順位	60歳以上（N=94）	
	サービス名	利用意向	利用状況		サービス名	利用意向
1	生活介護	8.9	5.1	1	居宅介護（ホームヘルプ）	7.4
2	移動支援	7.6	0.0	2	生活介護	6.4
3	地域活動支援センター	6.3	1.3	3	地域活動支援センター	5.3
3	就労移行支援	6.3	1.3	4	移動支援	3.2
3	居宅介護（ホームヘルプ）	6.3	2.5	5	訪問入浴サービス	2.2



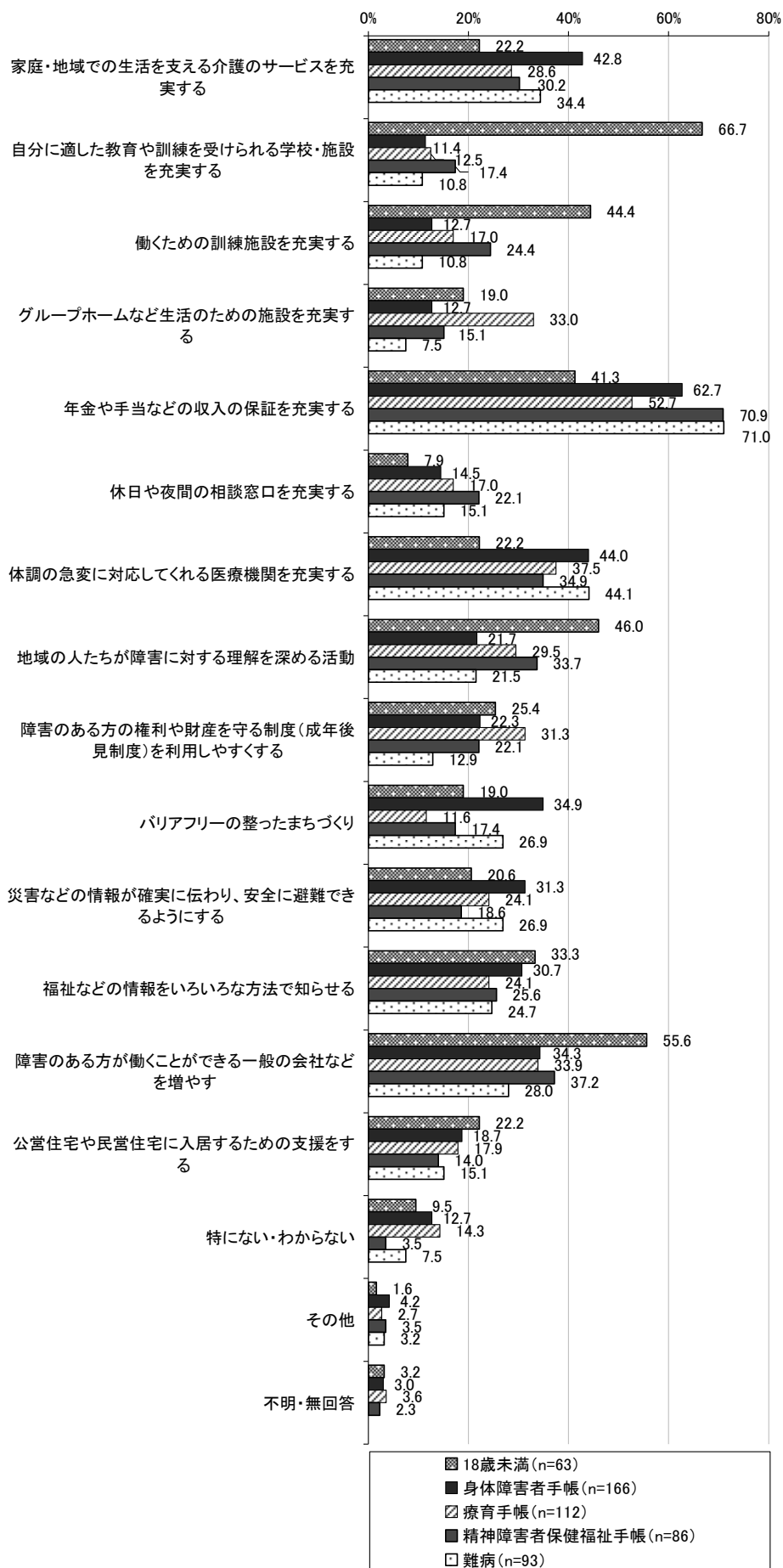
## ② 将来の暮らしを実現するための制度やサービス（問25）

将来の暮らしを実現するためには、どのような制度やサービスが必要だと思うかについてみると、「年金や手当などの収入の保証を充実する」が 59.4%と最も高く、次いで「体調の急変に対応してくれる医療機関を充実する」が 38.8%、「障害のある方が働くことができる一般の会社などを増やす」が 33.4%、「家庭・地域での生活を支える介護のサービスを充実する」が 32.9%となっています。

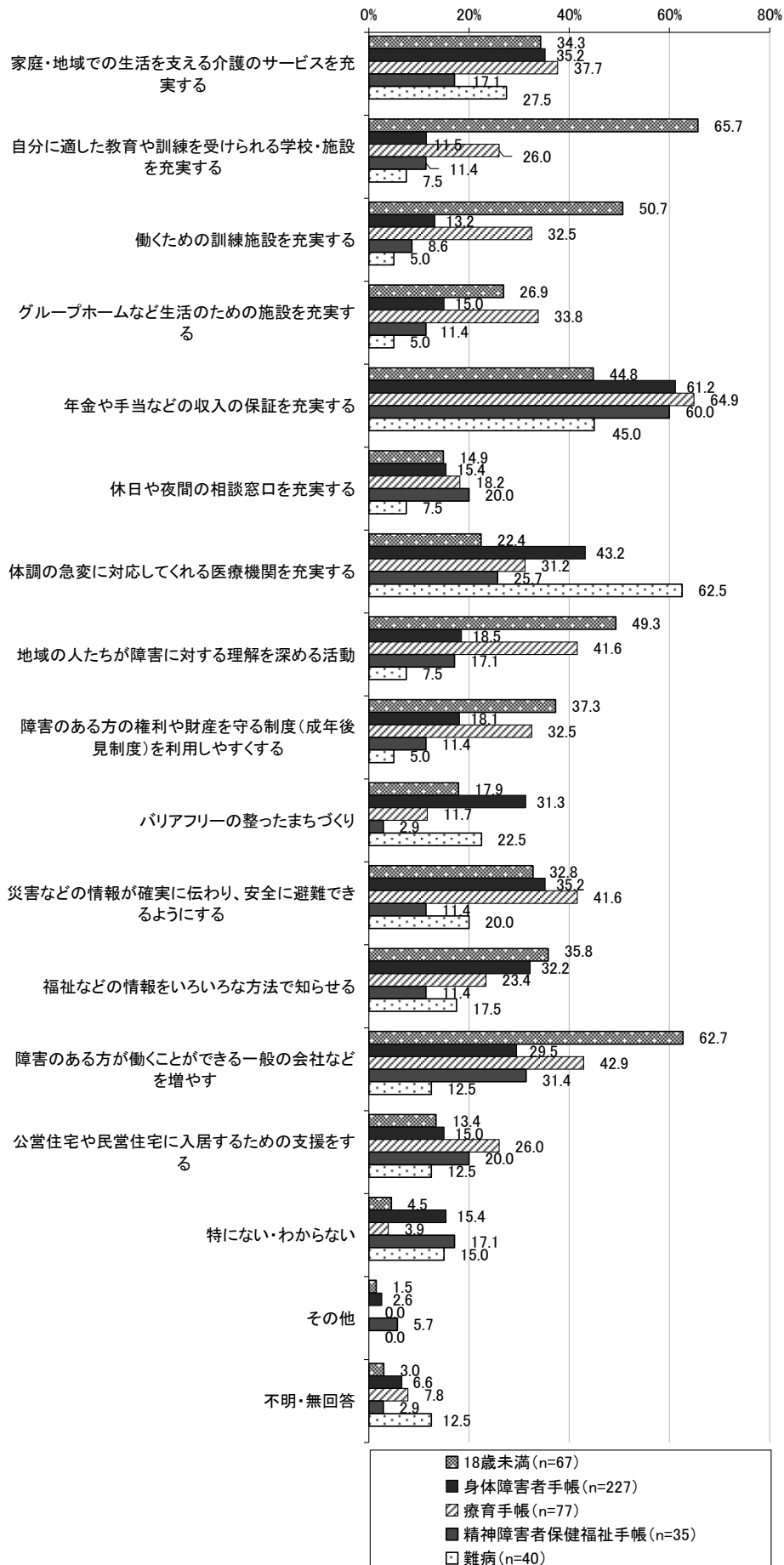


手帳別等についてみると、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳、難病は「年金や手当などの収入の保証を充実する」がそれぞれ 63.7%、70.9%、52.7%、71.0%、18歳未満は「本人に適した教育や訓練を受けられる学校・施設を充実する」が 66.7%と最も高くなっています。次いで「体調の急変に対応してくれる医療機関を充実する」、「障害のある方が働くことができる一般の会社などを増やす」、「家庭・地域での生活を支える介護のサービスを充実する」が上位項目となっています。

■ 将来の暮らしを実現するための制度やサービス（複数回答・手帳別等・18歳未満）



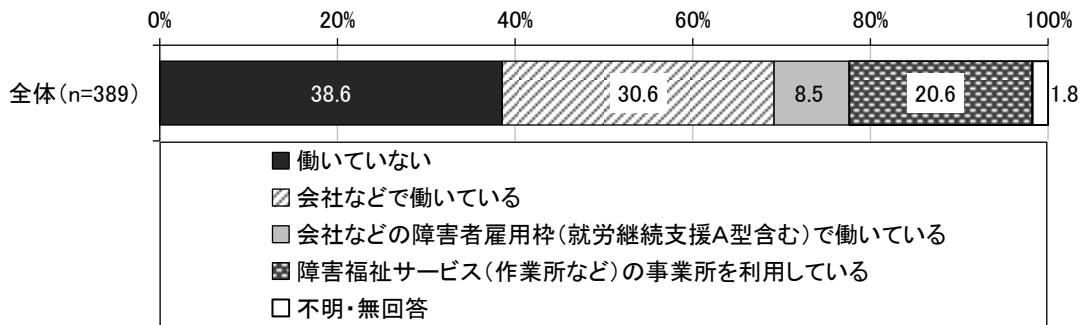
【前回調査】



## 5 就労・就業について

### ① 現在の就労状況（問26）

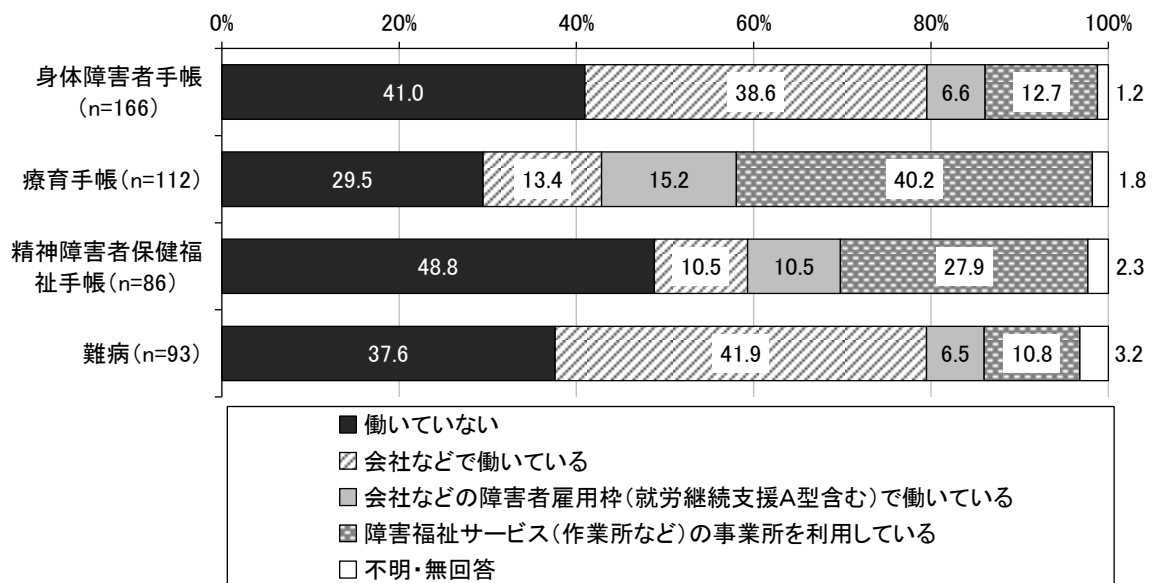
現在働いているかについてみると、「働いていない」が38.6%と最も高く、次いで「会社などで働いている」が30.6%、「障害福祉サービス（作業所など）の事業所を利用している」が20.6%となっています。



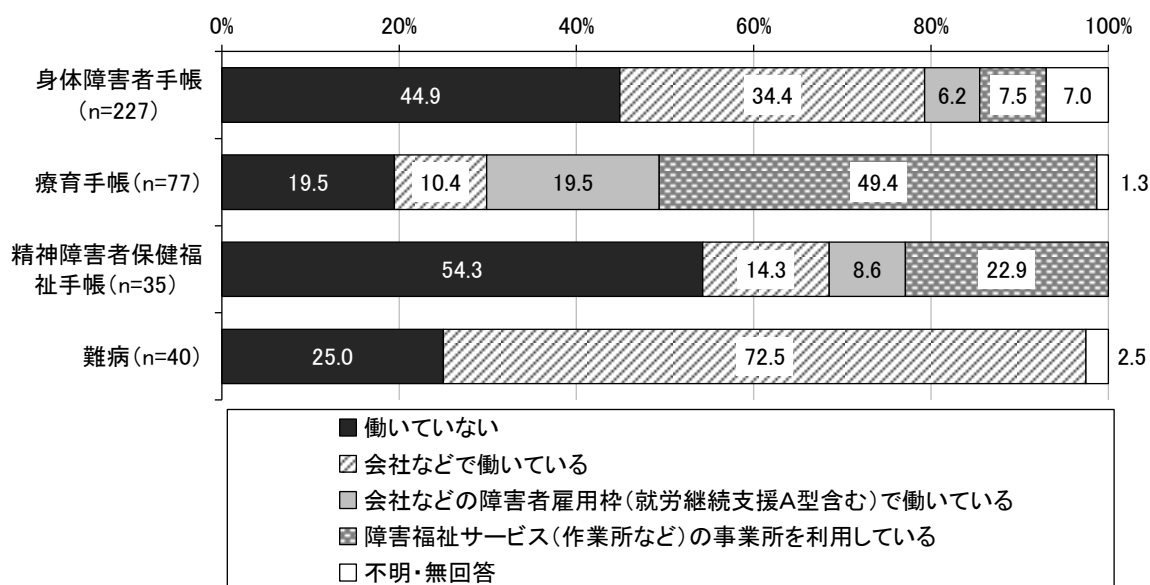
手帳別等についてみると、身体障害者手帳、精神障害者手帳は「働いていない」がそれぞれ41.0%、48.8%、療育手帳は「障害福祉サービス（作業所など）の事業所を利用している」が40.2%、難病は「会社などで働いている」が41.9%と最も高く、次いで身体障害者手帳では「会社などで働いている」、療育手帳、難病では「働いていない」、精神障害者手帳では「障害福祉サービス（作業所など）の事業所を利用している」となっています。

前回調査と比較すると、「働いていない」の割合は身体障害者手帳、精神障害者手帳では減少したものの、療育手帳、難病では増加となっています。また、難病では「会社などで働いている」の割合が30.6ポイントと大きく減少しています。

### ■ 現在の就労状況（複数回答・手帳別等・18歳以上）

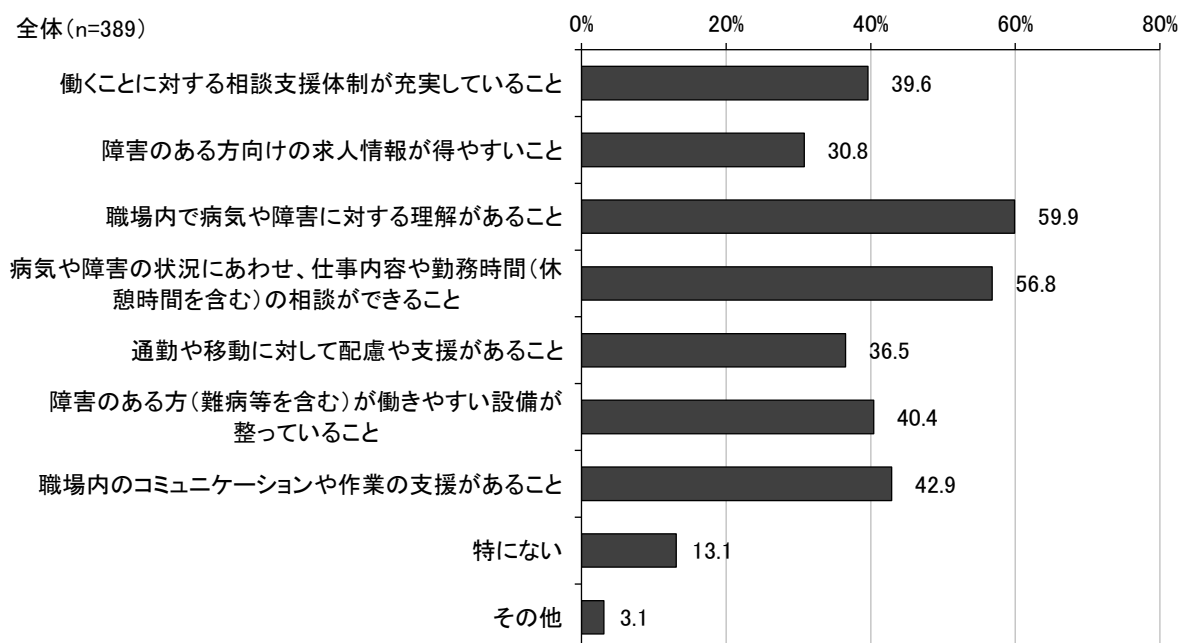


【前回調査】



② 就労に当たっての必要な配慮 (問29)

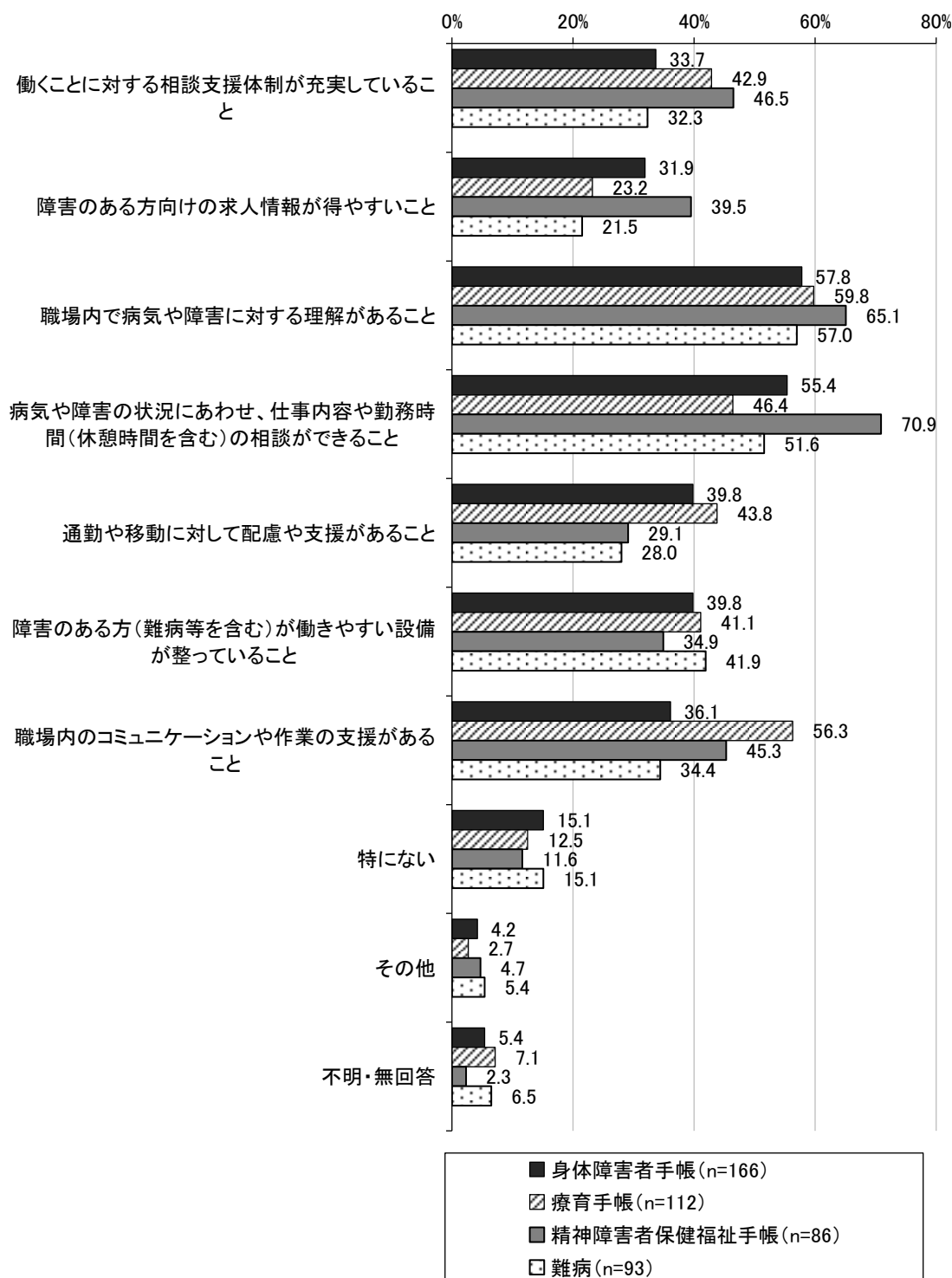
病気や障害のある方が会社などで就労するにあたり、どのような配慮が必要だと感じるかについてみると、「職場内で病気や障害に対する理解があること」が59.9%と最も高く、次いで「病気や障害の状況にあわせ、仕事内容や勤務時間(休憩時間を含む)の相談ができること」が56.8%、「職場内のコミュニケーションや作業の支援があること」が42.9%となっています。



手帳別等についてみると、身体障害者手帳、療育手帳、難病は「職場内で病気や障害に対する理解があること」がそれぞれ57.8%、59.8%、57.0%、精神障害者手帳は「病気や障害の状況にあわせ、仕事内容や勤務時間（休憩時間を含む）の相談ができること」が70.9%と最も高くなっています。

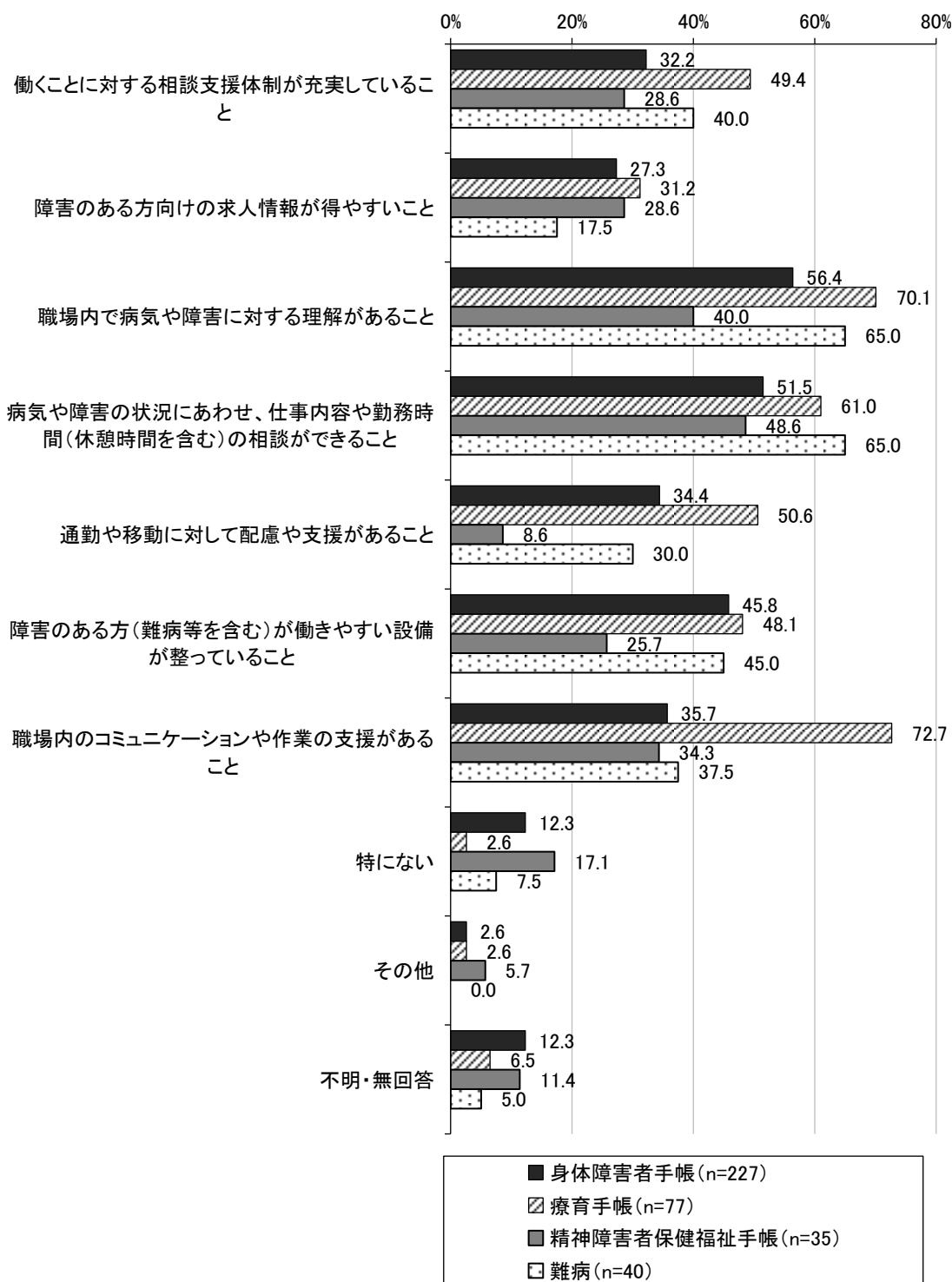
次いで身体障害者手帳、難病では「病気や障害の状況にあわせ、仕事内容や勤務時間（休憩時間を含む）の相談ができること」、療育手帳では「職場内のコミュニケーションや作業の支援があること」、精神障害者手帳では「職場内で病気や障害に対する理解があること」となっています。

### ■ 就労に当たっての必要な配慮（複数回答・手帳別等・18歳以上）



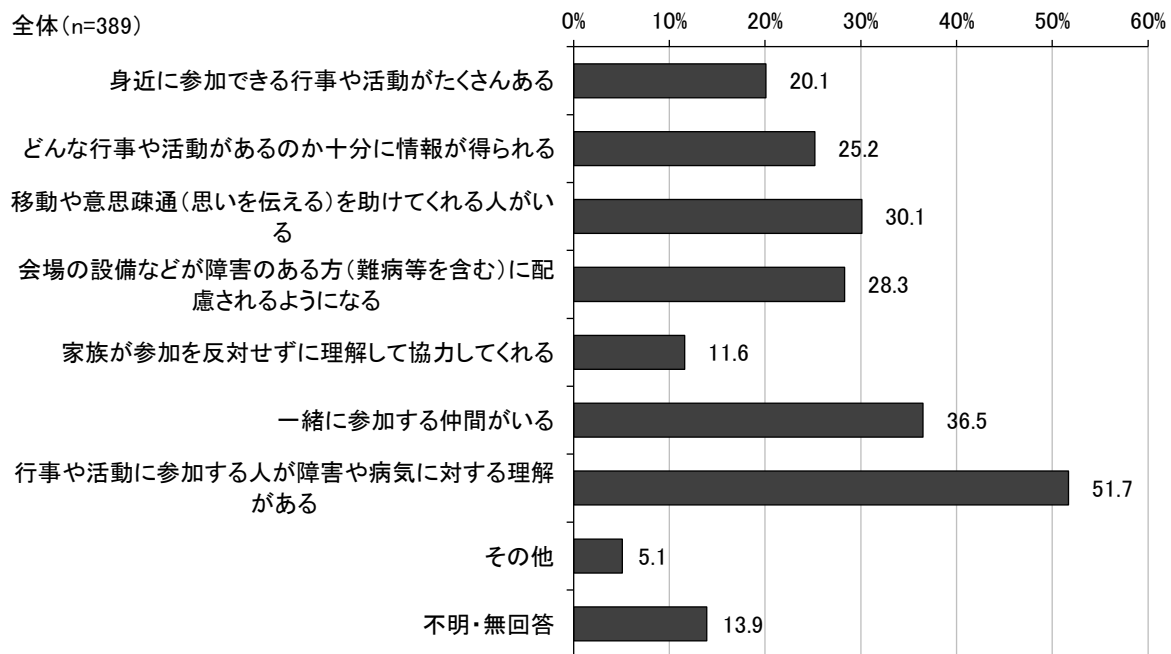
前回調査と比較すると、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳、難病とも上位項目に変化がなかったものの、精神障害者手帳では「職場内で病気や障害に対する理解があること」、「病気や障害の状況にあわせ、仕事内容や勤務時間（休憩時間を含む）の相談ができること」の上位2項目の割合が大きく伸びています。逆に療育手帳では「職場内で病気や障害に対する理解があること」、「職場内のコミュニケーションや作業の支援があること」の割合が大きく減少しています。

### 【前回調査】



### ③ 社会活動や地域行事に気軽に安心して参加するために必要なこと（問31）

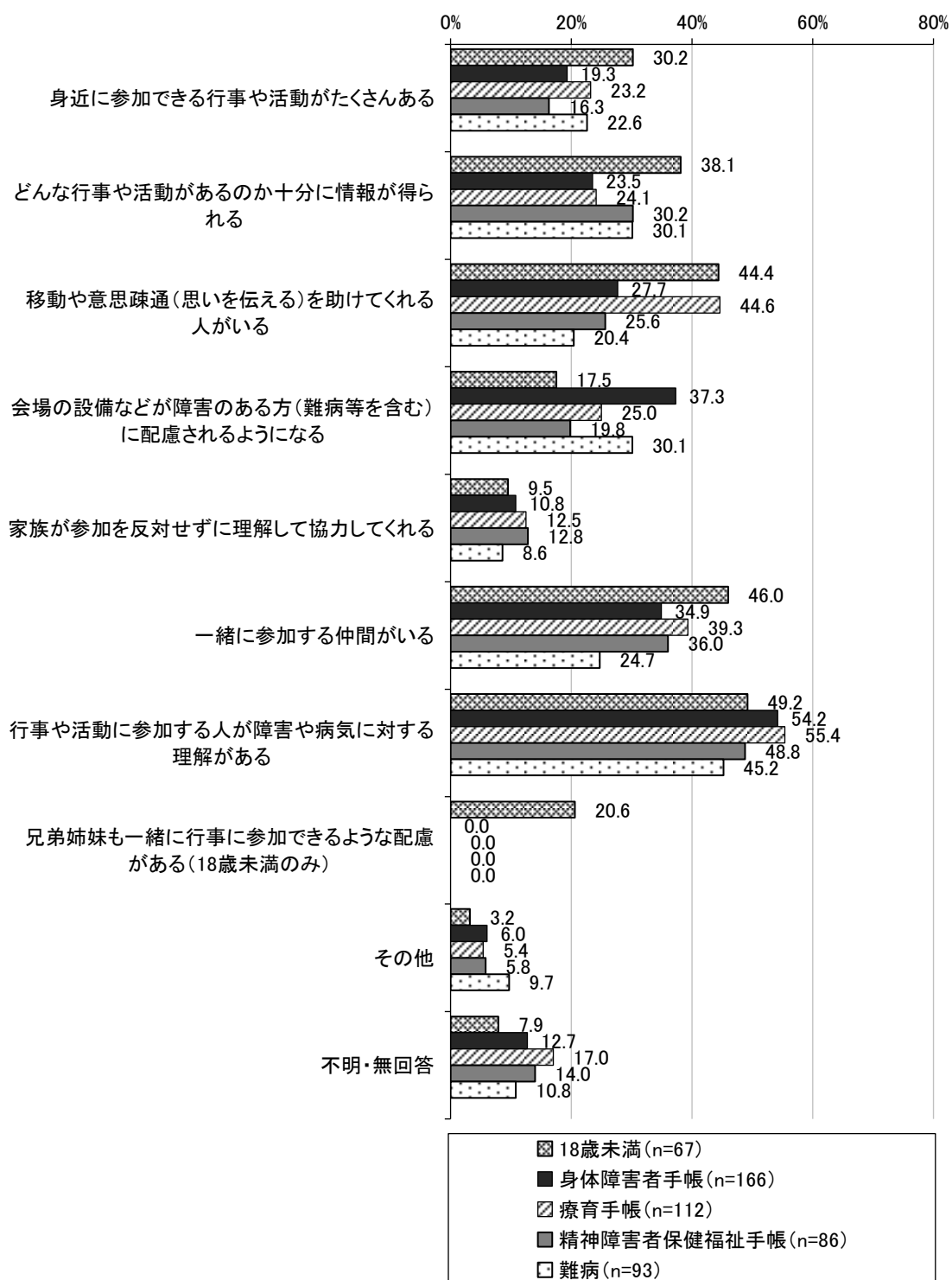
社会活動や地域で行われる行事などに安心して参加するために、どのようなことが必要だと思うかについてみると、「行事や活動に参加する人が障害や病気に対する理解がある」が51.7%と最も高く、次いで「一緒に参加する仲間がいる」が36.5%、「移動や意思疎通（思いを伝える）を助けてくれる人がある」が30.1%となっています。



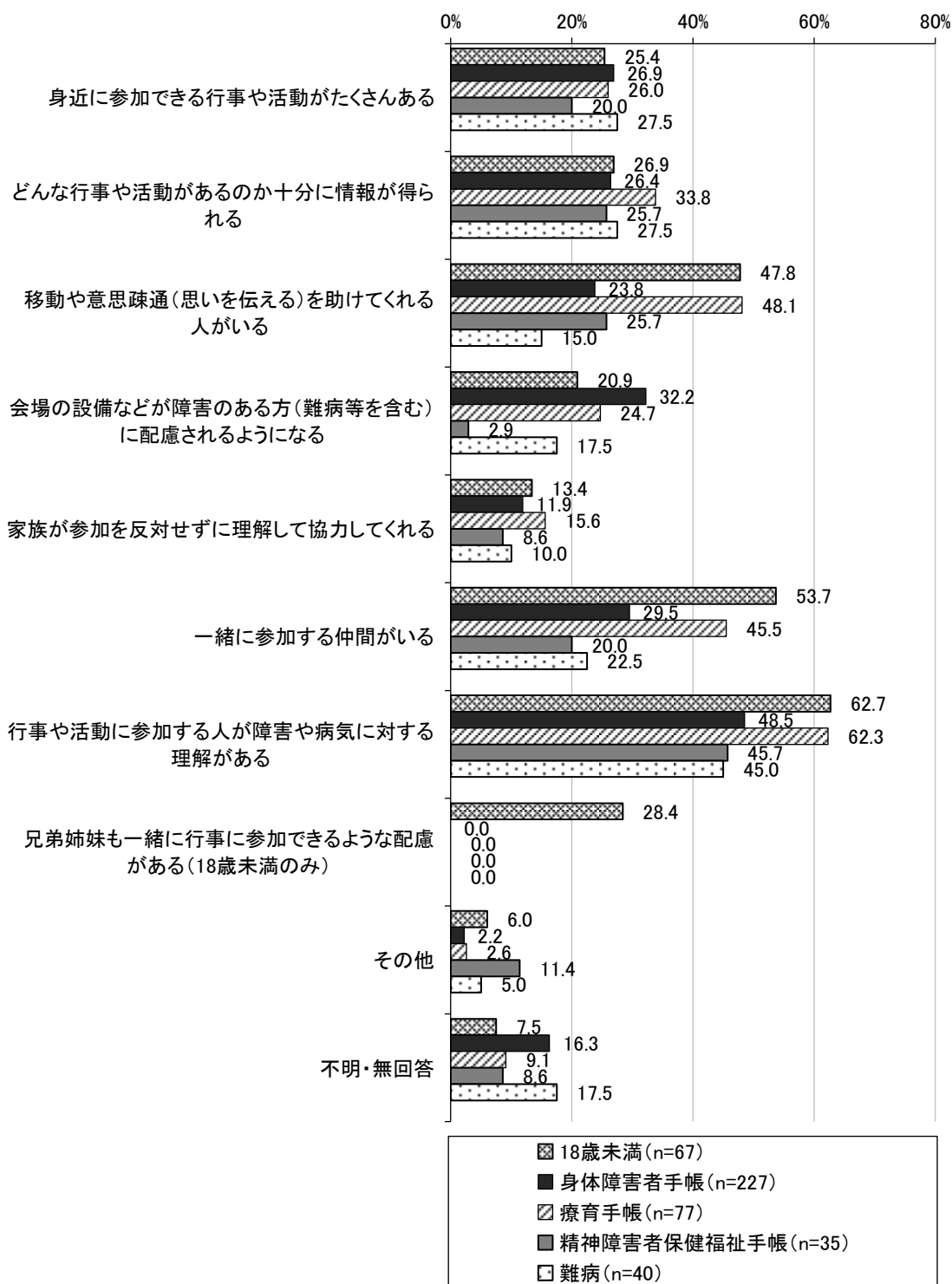
前回調査と比較すると、上位項目に大きな変化はないものの、18歳未満、療育手帳で「行事や活動に参加する人が障害や病気に対する理解がある」、「一緒に参加する仲間がいる」が大きく伸びています。一方、身体障害者手帳、精神障害者手帳では、上位項目でポイントの減少が目立っています。



■ 社会活動や地域行事に気軽に安心して参加するために必要なこと（複数回答・手帳別等・18歳未満）



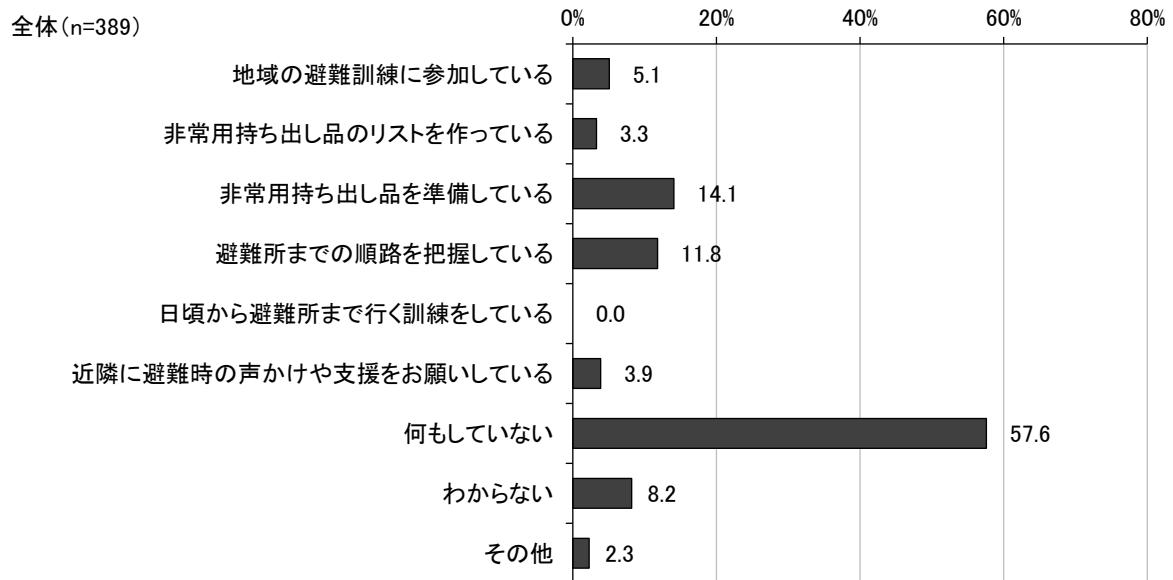
【前回調査】



## 6 災害時の対応について

### ① 災害が発生した時のために普段から準備していること（問37）

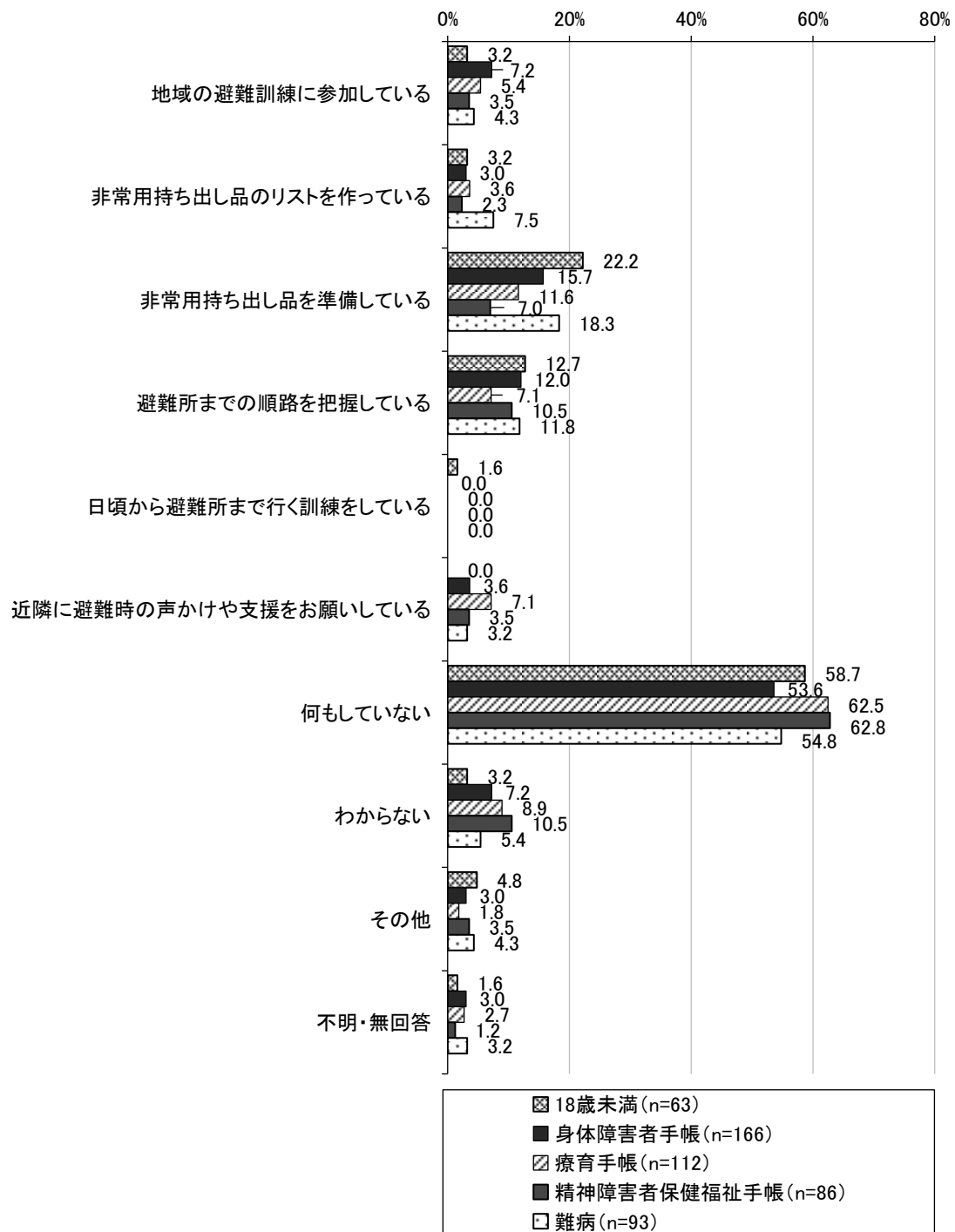
地震や火災、水害などの災害が発生した時のために、普段から何か準備をしているかについてみると、「何もしていない」が57.6%と最も高く、次いで「非常用持ち出し品を準備している」が14.1%、「避難所までの順路を把握している」が11.8%となっています。



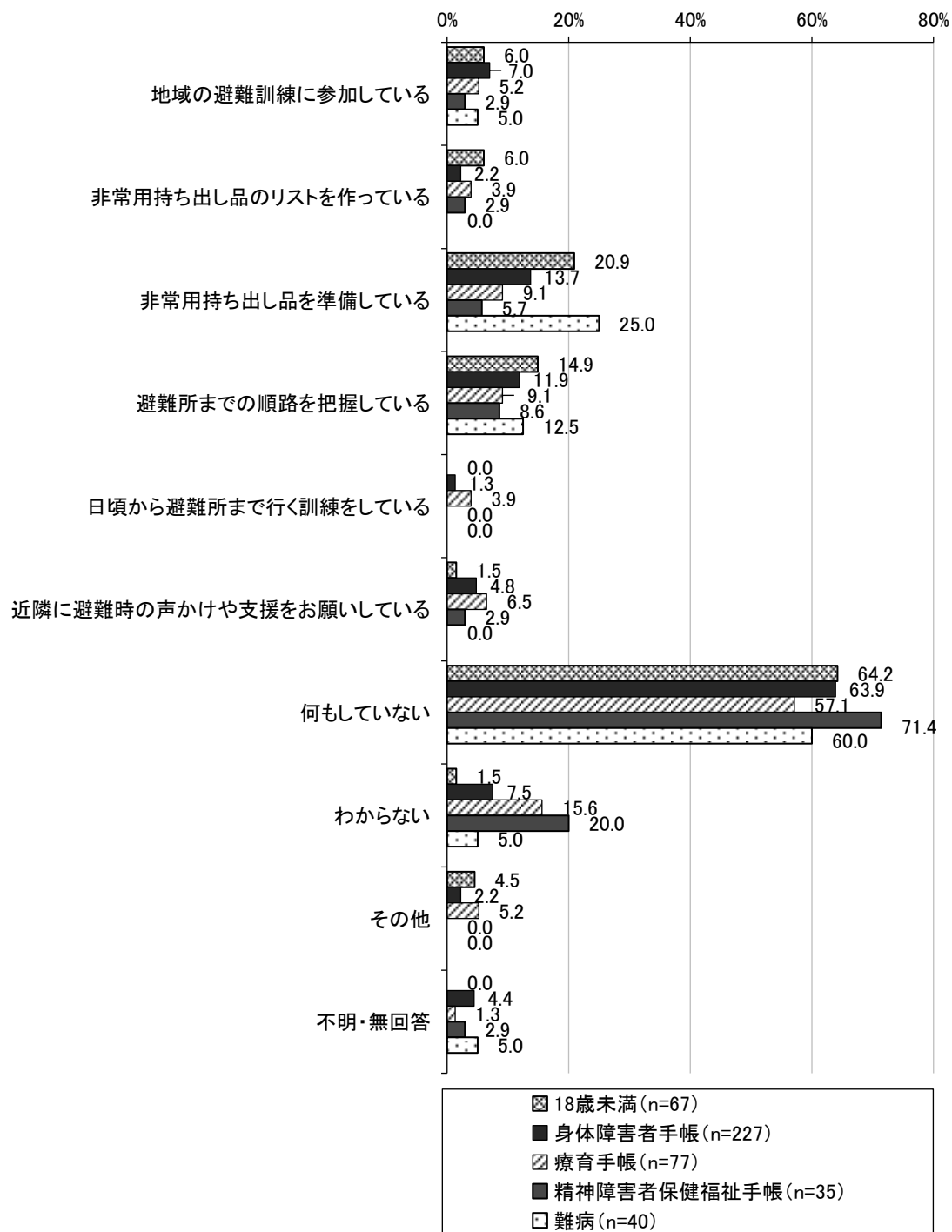
手帳別等についてみると、「何もしていない」を除き、18歳未満、身体障害者手帳、療育手帳、難病で「非常用持ち出し品を準備している」、精神障害者手帳で「避難所までの順路を把握している」が高くなっています。

前回調査と比較すると、「何もしていない」の割合が減少しているものの、上位項目に大きな変化はありません。

■ 災害が発生した時のために普段から準備していること（複数回答・手帳別等・18歳未満）

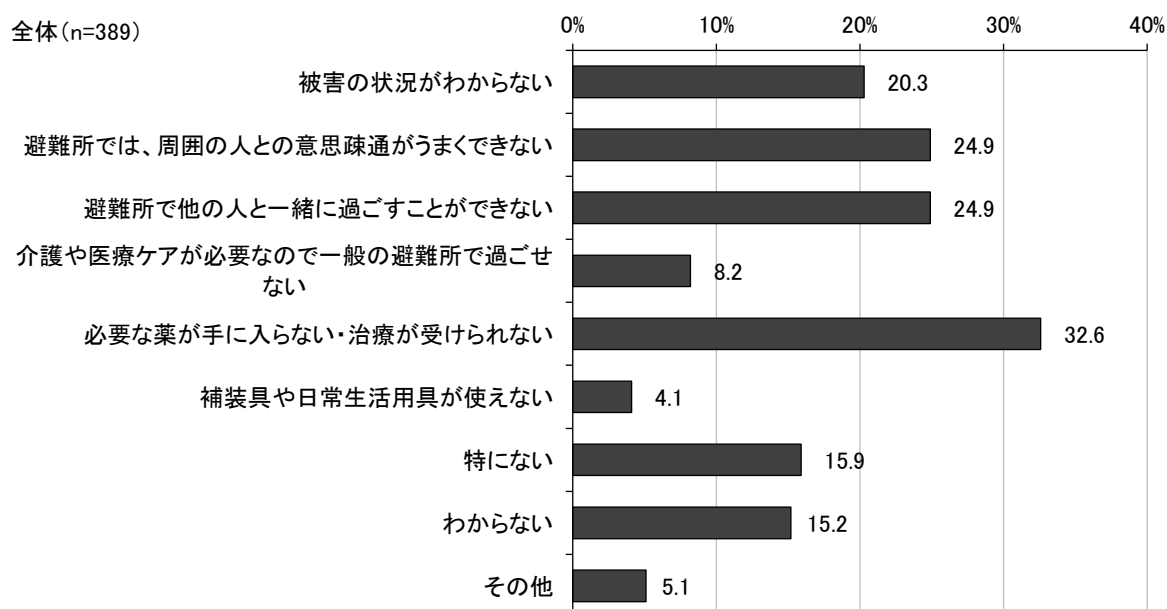


【前回調査】



## ② 避難所で困ること（問38）

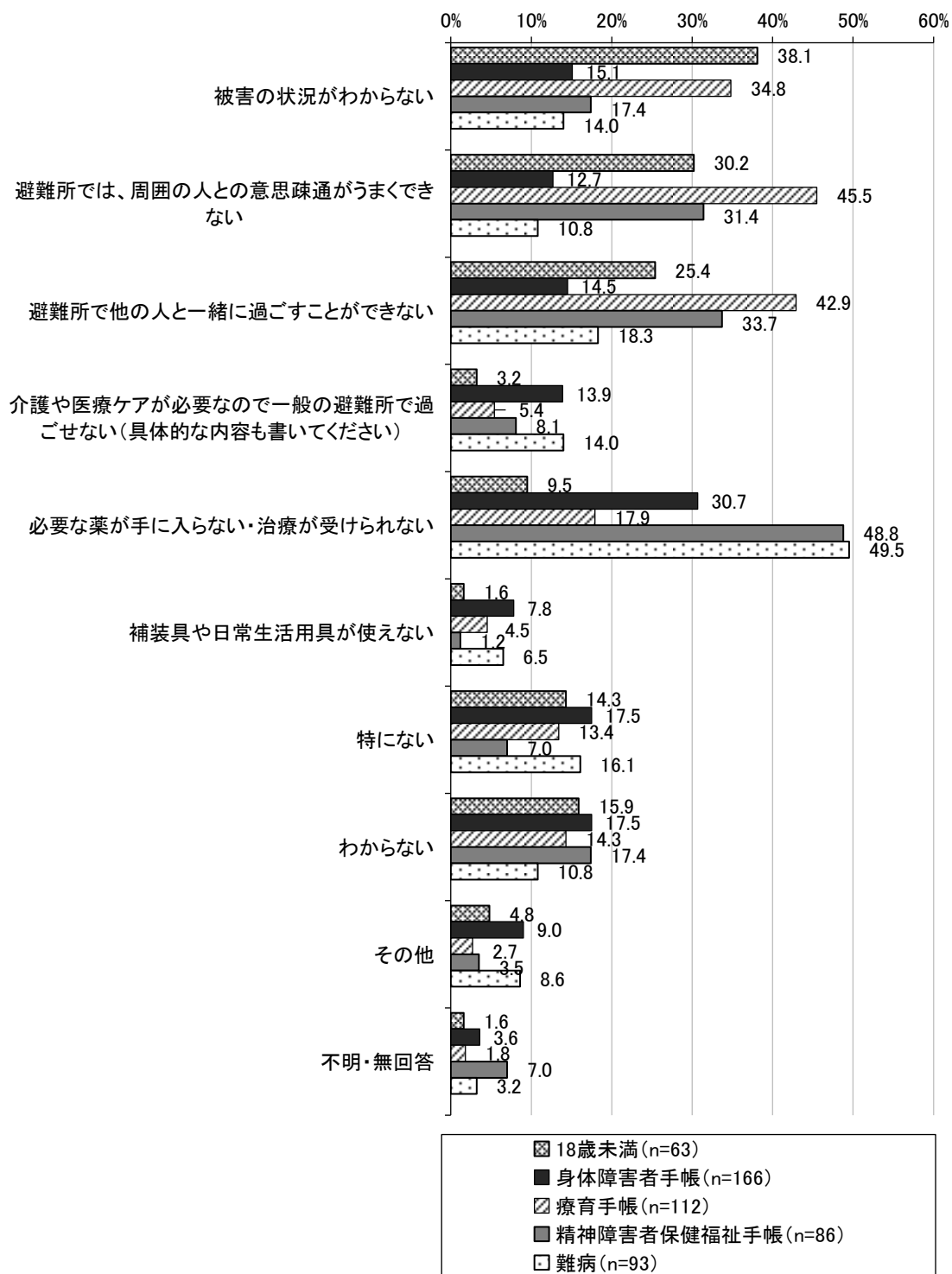
避難所で、困ることは何かについてみると、「必要な薬が手に入らない・治療が受けられない」が32.6%と最も高く、次いで「避難所では、周囲の人との意思疎通がうまくできない」と「避難所で他の人と一緒に過ごすことができない」がそれぞれ24.9%となっています。



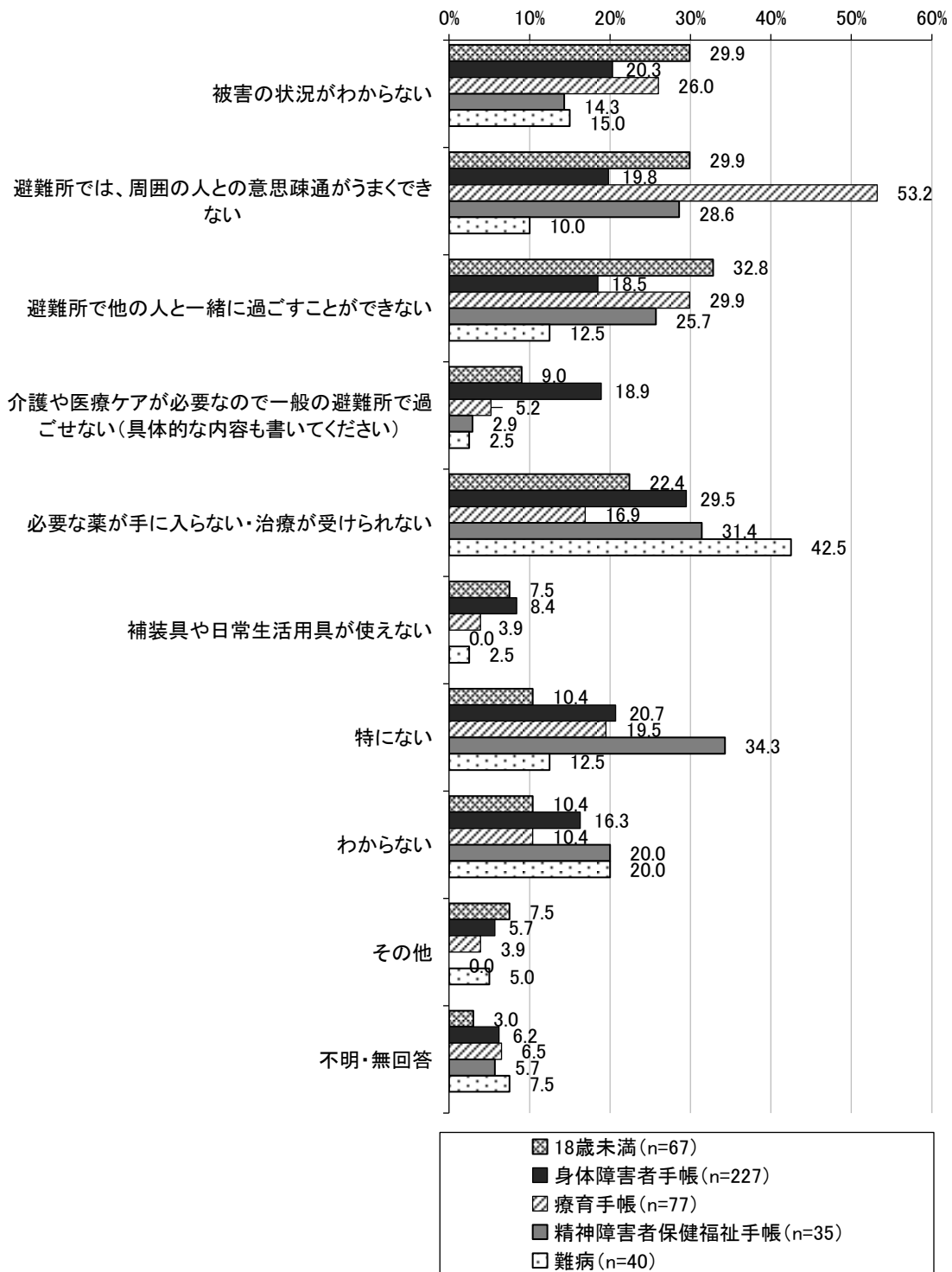
手帳別等についてみると、身体障害者手帳、精神障害者手帳、難病で「必要な薬が手に入らない・治療が受けられない」が、それぞれ30.7%、48.8%、49.5%、療育手帳で「避難所で他の人と一緒に過ごすことができない」が45.5%、18歳未満で「被害の状況がわからない」が38.1%と最も高くなっています。次いで療育手帳、精神障害者手帳、難病は「避難所で他の人と一緒に過ごすことができない」、18歳未満は「避難所では、周囲の人との意思疎通がうまくできない」となっています。

前回調査と比較すると、療育手帳での「避難所で他の人と一緒に過ごすことができない」、「避難所では、周囲の人との意思疎通がうまくできない」、精神障害者手帳、難病での「必要な薬が手に入らない・治療が受けられない」の割合の増加が目立っています。

■ 避難所で困ること（複数回答・手帳別等・18歳未満）



【前回調査】



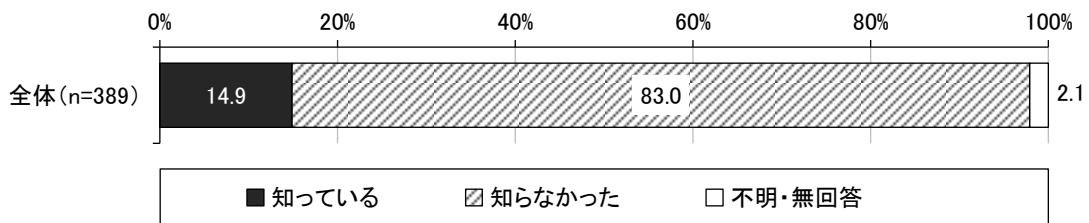


## 7 障害者差別解消法について

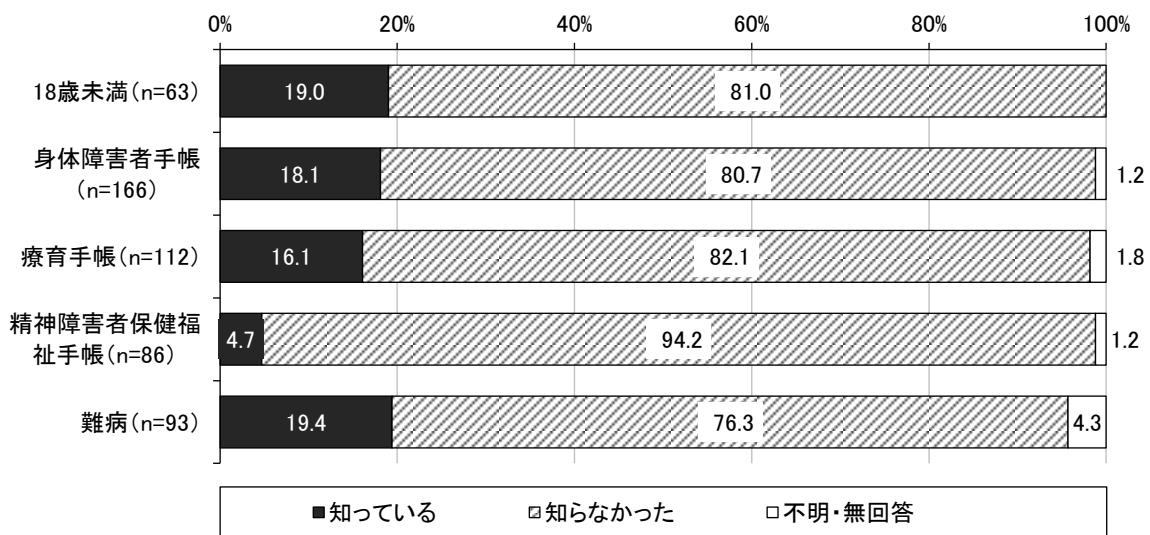
### ① 障害者差別解消法の認知（問39）

「障害者差別解消法」が平成25年6月に施行されたことを知っているかについてみると、「知っている」が14.9%、「知らなかった」が83.0%となっています。

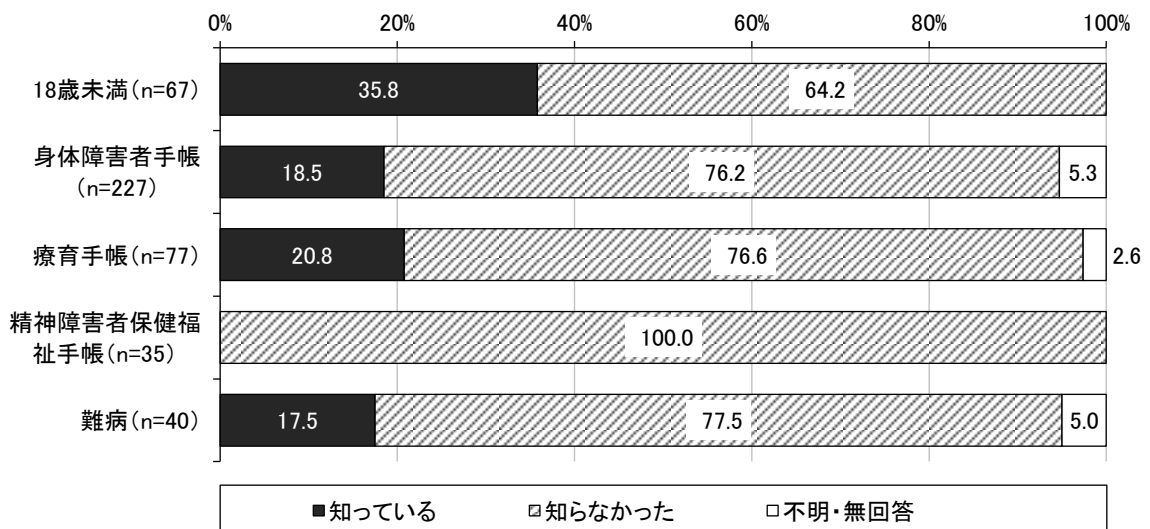
手帳別等についてみると、「知っている」の割合は精神障害者手帳を除き、2割弱となっています。前回調査と比較すると、精神障害者手帳難病で増加、18歳未満、療育手帳で減少となっています。



### ■ 障害者差別解消法の認知（単数回答・手帳別等・18歳未満）



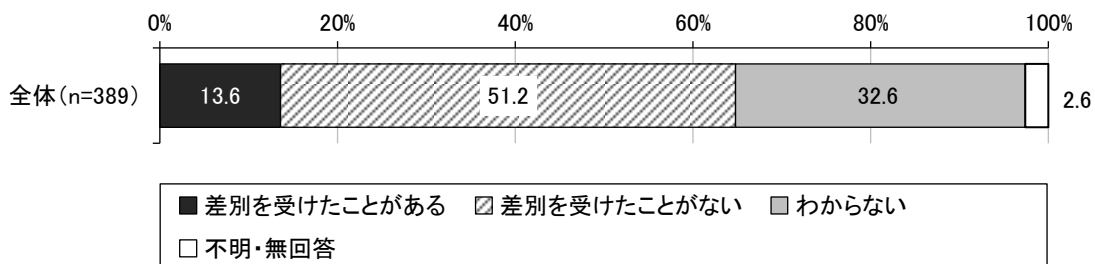
### 【前回調査】



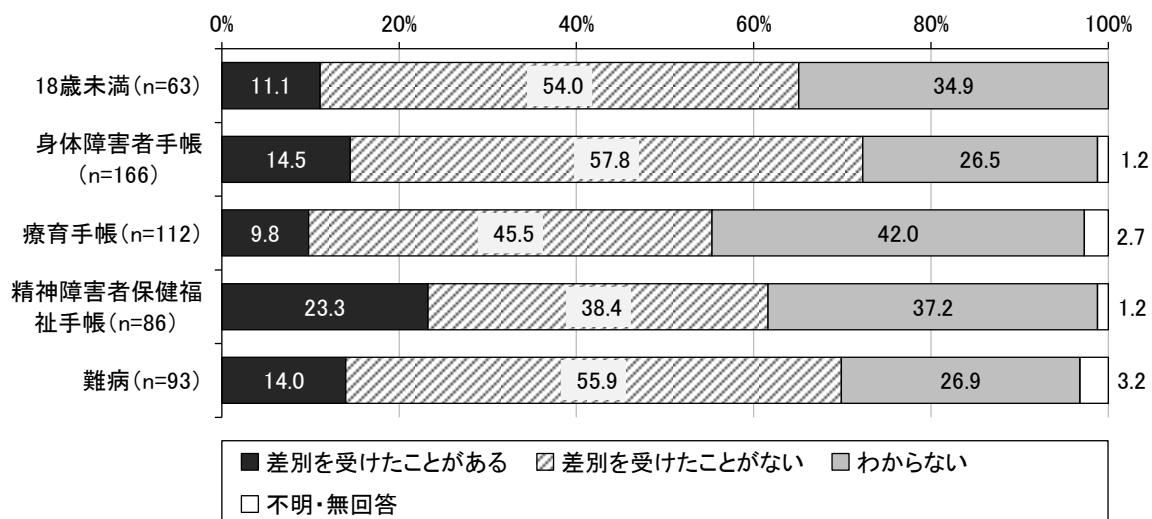
## ② 障害を理由とした差別の経験（問40）

平成30年（現行の障害者基本計画策定）以降に障害を理由とした差別を受けたことがあるかについてみると、「差別を受けたことがない」が51.2%と最も高く、次いで「わからない」が32.6%、「差別を受けたことがある」が13.6%となっています。

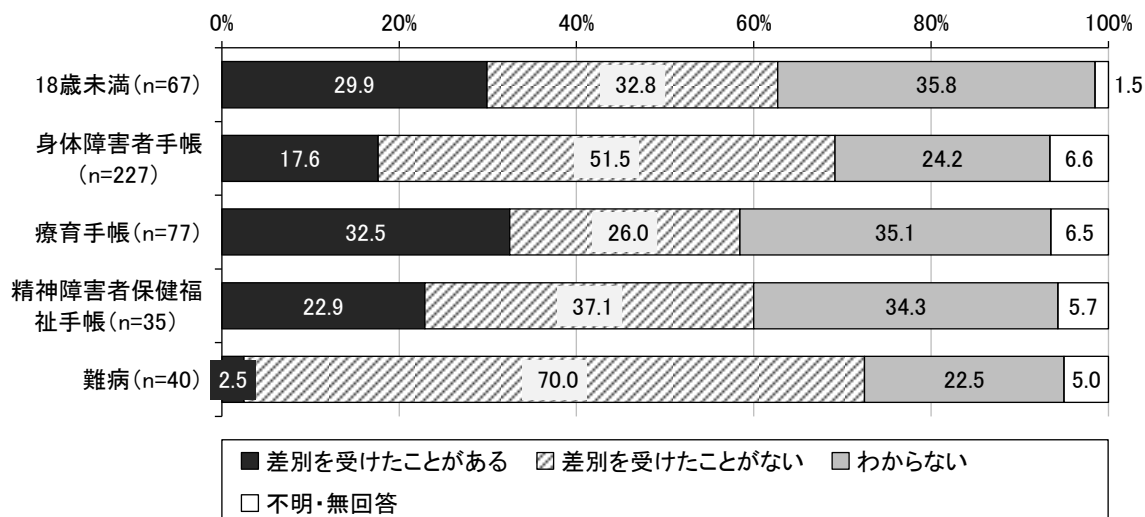
手帳別等についてみると、「差別を受けたことがある」の割合は精神障害者手帳の23.3%が最も高く、身体障害者手帳、難病、18歳未満では「差別を受けたことがない」の割合が5割を超えています。前回調査と比較すると、難病を除き、「差別を受けたことがある」の割合は全体的に減少となっています。



## ■ 障害を理由とした差別の経験（単数回答・手帳別等・18歳未満）

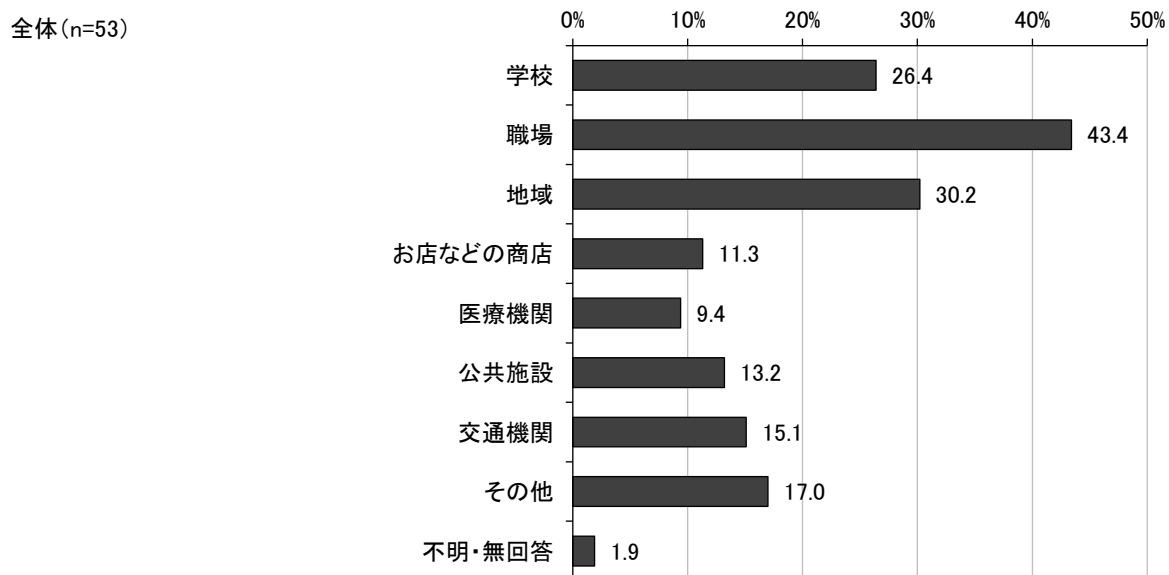


### 【前回調査】



### ③ 差別を受けた場所（問41）

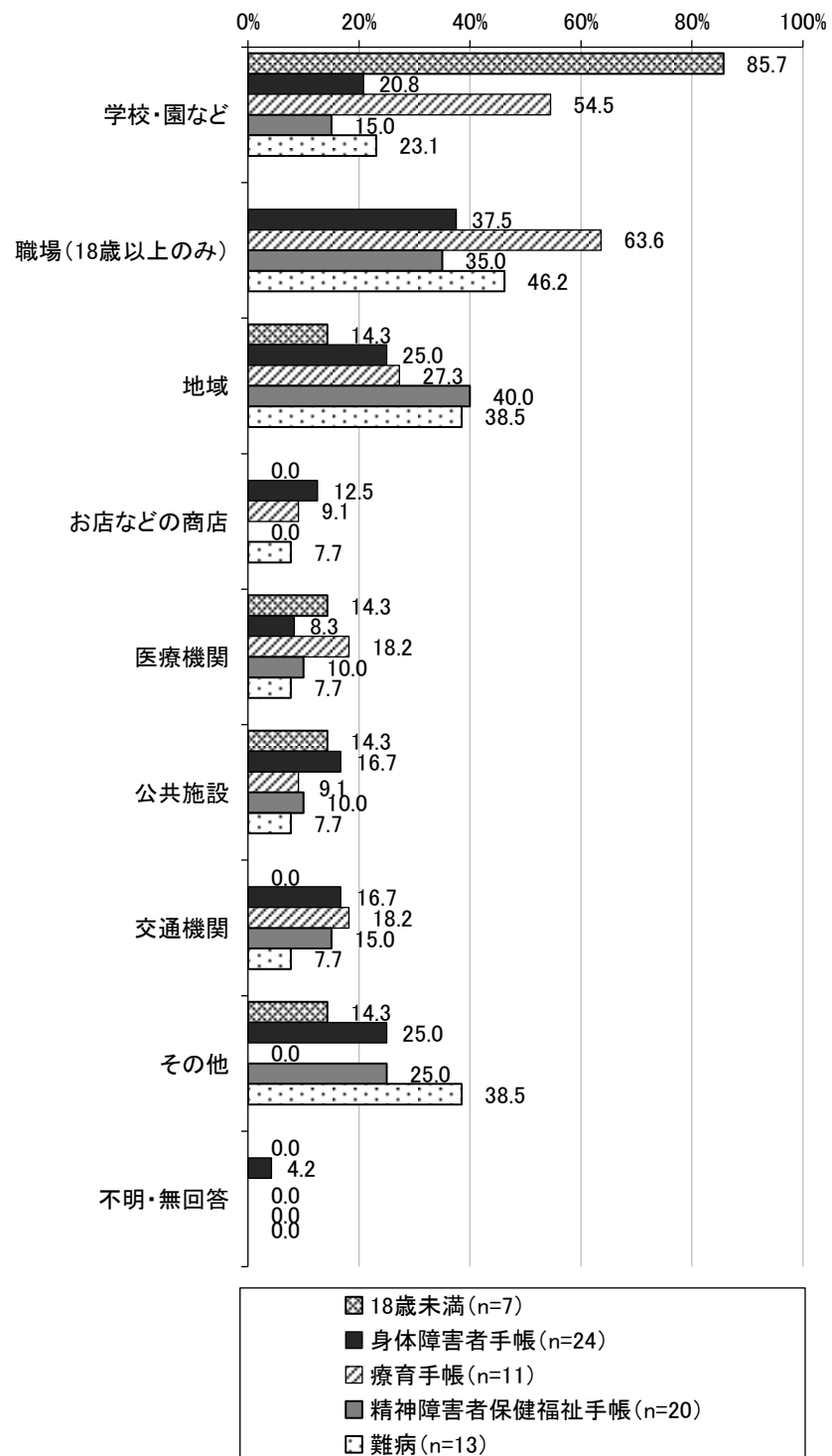
差別を受けたことがある方に対して、どこで差別を受けたかについてみると、「職場」が43.4%と最も高く、次いで「地域」が30.2%、「学校」が26.4%となっています。



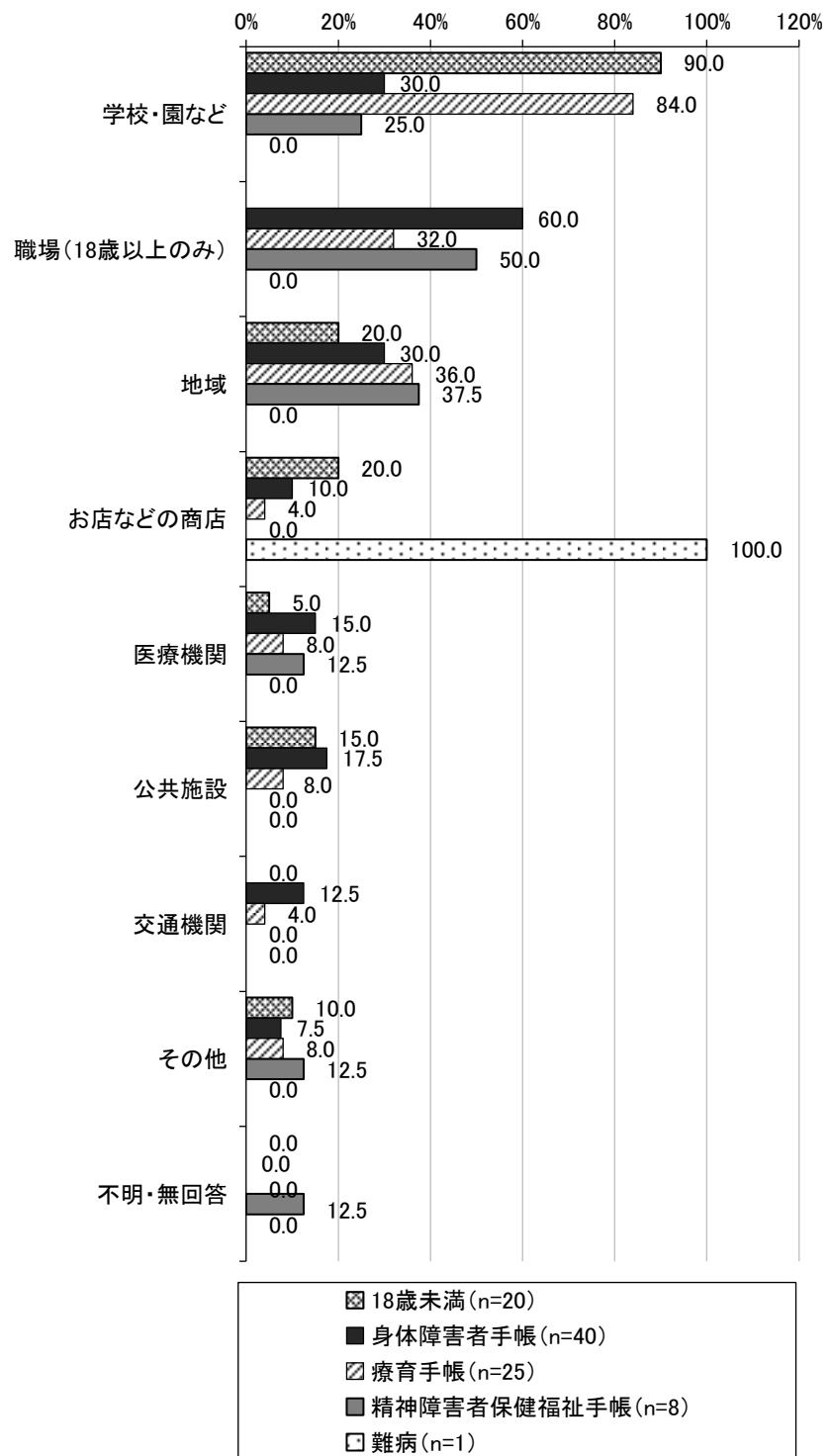
手帳別等についてみると、身体障害者手帳、療育手帳、難病は「職場」がそれぞれ37.5%、63.6%、46.2%、精神障害者手帳は「地域」が40.0%、18歳未満は「学校・園など」が85.7%と最も高くなっています。次いで身体障害者手帳、難病では「地域」、精神障害者手帳では「職場」、療育手帳では「学校・園など」となっています。

前回調査と比較すると、「学校・園など」、「職場」、「地域」などで根強く差別があり、他の場所でも一定数の差別が残っていることが分かります。

■ 差別を受けた場所（複数回答・手帳別等・18歳未満）



【前回調査】



## 8 子どもの相談等について

### ① サポートファイルの利用状況（問26・18歳未満）

サポートファイルの利用についてみると、「利用している」が88.9%、「サポートファイル」について知らない」が7.9%となっています。

前回調査との比較では、「利用している」の割合が38.2ポイント増加しています。

### ■ サポートファイルの利用状況（単数回答・18歳未満）

